

翻刻・駒澤大学蔵『略清規』（叢規口實）

尾崎 正善

はじめに

本論において翻刻・紹介する『略清規』（相國寺日用軌範、叢規口實）は、駒澤大学図書館および京都大学文学部図書館所蔵の資料である。その存在は、すでに駒澤大学図書館編『禪籍目録』（二〇四頁上）に記載されている。そこには次のように記される。

略清規 （相國寺日用軌範）

② 一冊 ③ 能寅編 ④ 寫（慶長頃） 能傳手澤本

⑤ 駒大〇八五―一〇 ⑦ 見返シニ南化玄興ノ直筆ガアル

以上のような簡単な書誌が付されているが、そこには、京都大学の写本の存在が記されていない。

筆者は、清規関係の資料収集の過程において、一九九九年に京都大学文学部図書館において無著道忠書写本の『叢規口實』（Ind.Ph-Q38）を発見した（以下、京大本と略す）。「京大本」の外題は先に示したように『叢規口實』であり、所蔵カードもこの名称で記されているが、内題は『略清規』であった。早々、駒大所蔵本（以下、駒大本と略す）のマイクロフィルムからの写真と比較したところ、冒頭の目録部分や書式において差違が確認できたが、

同一内容の書であることが判明した。

そこで改めて「駒大本」の原本の閲覧を請求したところ、意外な事実が判った。まず、本書は箱に入れて所蔵してあったが、その箱の中央には「叢規口實 壹卷」と記されていた。さらに、題箋も写真では判読できなかったが「叢規口實」と記されていたことが、新たに確認できた。

また、箱書きには、以下のようにあった。

此略清規一卷能傳清稿

一心持之古出也遙孫春泰修

補蠹損新添外筐以永為

一家之庫書也

安政己未林鐘 篁座主人書

これによると、この『略清規』は能傳が浄書し、護持していたものであり、それを法孫である春泰なる禪者が、虫損を補修し、さらに外箱を新添して、永く一家の書として伝えようとしたのである。これが、安政六年（一八五九）六月であった。

実際、補修の手は加えられているが、その後の虫損も多数あり、保存状態は余り良くない。なお、表紙はその時点で新たに作り直したようであるが、題箋は古い時代の物をそのまま使用しており、能傳が手にした時点の姿を留めていると思われる。これは、「京大本」と同一の形式である。それではなぜ、箱書及び題箋に記される外題をその名称として採用しなかったのであろうか。今となつてはその理由は判然としないが、改めていうまでもなく「京大本」とは同一系統であることが確認できた。

次に、本書の成立時期、その特徴等について簡単に述べてみたいと思う。

一、成立の時期

さて本清規の成立年代は、いつ頃であろうか。巻首に妙心寺五八世、南化玄興〔定慧圓明国師〕（一五三八―一六〇四）の直筆があることから『禅籍目録』では慶長頃と記しており、道忠もその序文の中で国師の親書であると述べている。その書写した時期は、慶長を余り遡らない頃と推測されるが、実際に著した能演、及びこれを伝えた能傳なる禅者の行実は現時点では不詳である。

一方で、玄興自身表紙の見返しに書した一文の中で、この「相国寺日用軌範」の淵源を建仁寺の無因和尚〔無因宗因〕（一二三二―一四一〇）に求めている。しかし、宗因には相国寺及び妙心寺での具体的な活躍の記録はない。さらに、「前任入牌 廿三」には、

又近年ハ雪心和尚ノ代ニ維那モ塔主モ不請ノ、但スクニアル時アリ。又古邦和尚代ニ海門和尚入牌アリ。其時ハ住持諸堂ノ焼香ノ、都寺ノ上ニ立時、塔主ヨツテ拈香ヲ請。是ハ蘭室西堂ノ意見也。

と、いう記述がある。これによると「前任入牌（入祖堂）」の儀礼において、近年の雪心和尚（雪心等柏）の代には維那も塔主も招聘されなかったことがあった。また、古邦和尚（古邦慧淳）の代には海門和尚（海門承朝）の入牌があつたが、その時は住持は諸堂の焼香を済ませて、都寺の上位に立った時、塔主が拈香を求めた。これは蘭室西堂の意見であつた等の、具体的事例を紹介している。

ここに記される禅者は、全て相国寺の関係者であるが、時代は一五世紀中頃に該当する。『相国寺史料』「萬年山聯芳録」によれば、まず雪心等柏（一四一三―一四八九）は、相国四九世で文安三年（一四四六）九月二二日の入

寺、長享三年一月二二日に世寿七七歳で寂している。

続いて古邦慧淳（二三七四―一四五三）は、相国五三世で宝徳元年（一四四九）三月一〇日の入寺、享徳二年六月二八日に世寿七〇歳で寂している。

海門承朝（一三七四―一四四三）は、入牌を行われた禪者であるので先の二人よりも時代は遡るが、相国二〇世で応永三〇年（一四二三）九月二七日の入寺、嘉吉三年五月九日に寂している。（但し、『相国寺史料』巻一「相国考記・上」では、九月二九日の入寺とする）

蘭室は、現時点では不詳である。

雪心等柏の代を近年と記している以上、その成立の時期もそれを余り下らない一五世紀末までではなかろうか。

清規やそこに記される儀礼は、成立後も時代とともに改編されることが想定される。そのため、正確な成立時期を確定することは出来ないが本清規の成立過程を推測すると以下になる。まず、玄興の言に依るならば、相国寺の軌範の基となったのは、無因宗因の定めたものと考えられるが、本清規を実際に編集したのは能演である。成立は雪心等柏の代をあまり隔たぬ時期であろう。ただし、無因宗因の規矩に基づいてどれ程加筆訂正が行われたかは全く判らなし、さらにいうならば、無因宗因が定めた規矩が存在したのかもどうかも現時点では不明である。

さらに、その書を能傳堂司が書写し、慶長頃その見返しに玄興が序を付したのである。「京大本」は、それを江戸中期、無著道忠が書写させたものである。

なお、次にも述べるが、「京大本」は語句の異同等から「駒大本」を直接書写したとは考えにくい、同一内容であることは間違いないので、能傳書写本の系統が相国寺に複数存したか、妙心寺等に伝えられた諸本が存したと考えられる。

二、「駒大本」と「京大本」の相違

次に、「駒大本」と「京大本」との相違について述べてみよう。結論を述べるならば、前にも記したようにともに能傳書写の同一の系統である。外題・内題の表記も玄興の序文も同一で在るばかりでなく、傍注部分の表記も全く同じである。

しかし、若干の相違が確認できる。第一点は以下に示すように文体の相違である。

「駒大本」 大茶湯 二(2a)

其日齋婦ニ、都寺方丈ニ上テ、住持テ對ノ小問訊ノ、進テ香ヲ立触礼ノ去。次首座寮ニ詣ス。

「京大本」 大茶湯 二(2b)

其日齋婦ニ、都寺上_二方丈_ニ、向_二住持_ニ小問訊ノ、進_テ立_レ香_ヲ觸禮_シ而_レ去_ル。次_ニ詣_ス首座寮_ニ。

「駒大本」 粥僧堂 四(4b)

十八鐘ヲ聞テ知事ト知客ト堂ニ入テ、聖僧ニ問訊ノ位ニ立、住持ハ問訊ノ鼓ニ通目ニ堂ニ入テ、下座ノ問訊ノ椅子ニ座ス。

「京大本」 粥僧堂 四(6a)

聞_テ十八鐘_ヲ知事_ト知客_ト入_レ堂_ニ、問_ニ訊_シノ聖僧_ニ立_レ位_ニ、住持_ハ問訊_ノ鼓_ニ通目_ニ入_レ堂_ニ、下座_ノ問訊_ノ坐_ス椅子_ニ。

以上は、ほんの一例であるが、「京大本」は返り点の附いた、漢文形式であるのに対し、「駒大本」はその書き下しの形式である。「駒大本」には一部返り点の箇所も確認できるが、全体は和文の形式であり、これは、原本は漢文形式であったものを和文に改めたと見るか、また穿って見るならば道忠がその形式を整える意味で漢文形式に改めた可能性の双方が考えられる。

この形式を整えたという可能性としては、「駒大本」が、「触・燭・炉・灯・礼・辨香」に作るのに対して、「京大本」は「觸・燭・爐・燈・禮・瓣香」というように、意識して正字もしくは正しい表記に改めているようである。また、先に上げた短い文章の間にも、数カ所の字句の異同が確認できる。

第二点は、文字の異同の共通性である。これは先に示した字体の相違や、また細かな字句の異同というものとも違う、全編にわたり字句が変更されている例が確認できる点である。例えば「駒大本」の〔脇〕を「京大本」は〔側〕に、「駒大本」の〔一〕を「京大本」は〔揖〕に、「駒大本」の〔呑〕を「京大本」は〔飲〕に、「駒大本」の〔一例〕を「京大本」は〔一列〕に、「駒大本」の〔禪学〕を「京大本」は〔禪客〕にというように統一的な文字の相違が確認できる。先に示したような一箇所、二箇所という異同であるならば写誤の可能性も否定できないが、全ての箇所に通して確認できることから、別の系統の写本が存在したと考えられる。

但し、「京大本」は目録部を付すなど、体裁を整えた箇所が確認できる上に、字体も後世の手が入っているとも考えられるので、最終的な結論を出すのは危険であると思われる。

三、他の清規との関係

最後に『叢規口實』と先行する諸清規との関係について簡単に記しておこう。

『叢規口實』の項目は、その目録部にも示されるように、以下の三九項目である。

これを、先行する主要な清規である、『禪苑清規』崇寧二年（一一〇三）、『叢林校定清規總要』咸淳十年（一二二七）、『叢規口實』至大四年（一三二一）、『勅修百丈清規』至元四年（一三三八）等とその項目の有無と類似性を比較してみると、次のようになる。

- 土地堂念誦一 勅修百七 (T48.1152b)
大茶湯二 (諸清規に項目ナシ)
小參三 校定一 (Z112.14c) 備用一 (Z112.35b) 備用四 (Z112.46d) 勅修百一 (T48.1119c)
粥僧堂四 「展鉢之法」日用 (Z111.472c)
祝聖五 (諸清規に同内容ナシ)
上堂六 校定一 (Z112.14c) 勅修百一 (T48.1119b)
庫子之禮七 (諸清規に項目ナシ)
首座之禮八 (諸清規に項目ナシ)
巡堂九 「日望巡堂茶」備用三 (Z112.43b) 勅修百七 (T48.1154b)
住持茶禮十 (諸清規に項目ナシ)
知事茶禮十一 (諸清規に項目ナシ)
首座茶禮十二 (諸清規に項目ナシ)
首座寮湯禮十三 (諸清規に項目ナシ)
杖拂牌送禮十四 (諸清規に項目ナシ)
秉扨十五 入衆 (Z111.477c) 備用一 (Z112.38b) 勅修百七 (T48.1153c)
秉扨管待齋禮十六 (諸清規に項目ナシ)、「秉扨後管待」『大鑑清規』
兩班投交之禮十七 (諸清規に項目ナシ)、「管待新舊兩班」備用六 (Z112.51b)
佛涅槃十八 備用一 (Z112.32c) 勅修百一 (T48.1116a)

- 二 祖宿忌十九 『大鑑清規』 『東漸清規』
 同 獻粥二十 (諸清規にナシ)
 同 半齋二十一 (諸清規にナシ)
 前 住忌二十二 『大鑑清規』
 前 住入牌二十三 『東漸清規』
 衆寮小茶湯禮二十四 (諸清規にナシ)
 結制之禮二十五 「結制行札」 備用三 (Z112.41d) 「結制札儀」 勅修百七 (T48.1153a)
 入寺儀式二十六 「新任持入寺大衆告香禮儀」 『大鑑清規』
 上堂兼拂禪學就侍香寮禮二十七 (諸清規にナシ)
 退院上堂二十八 「退院」 禪苑七 (Z111.459a) 勅修百二 (T48.1127a)
 日望上堂二十九 「日望祝聖陞座」 『大鑑清規』
 上堂歸巡堂三十 (諸清規にナシ)
 三八念誦巡堂三十一 「三八念誦」 『大鑑清規』 「念誦巡堂」 校定二 (Z112.17a)
 初更五更坐禪三十二 (諸清規にナシ) (坐禪の項目はあり)
 巳時三十三 (諸清規にナシ)
 坐參三十四 備用二 (Z112.34c) 勅修百六 (T48.1143b) 『大鑑清規』
 諸堂諷經三十五 (諸清規にナシ)
 西堂參暇禮三十六 (諸清規にナシ) 「交代茶」 備用六 (Z112.52a)

都聞交代三十七 (諸清規にナシ)

大坐參三十八 勅修百六 (T48.1143b)

衆寮諷經三十九 (諸清規にナシ)

*項目の下に、清規名・頁を記したものは、その項目が存するもの（内容の相違は特に考慮しない。「」で項目名を上げて記したものは、項目名は異なるが内容が近似するもの。（諸清規にナシ）と記したものは、先行する清規に確認できないもの。但し、その場合でも若干の類似性が認められるものは、項目名を上げ、清規名・頁を示した。

以上のように、簡単に『叢規口實』の特徴について触れてみたが、相国寺における独自性が数多く確認できる。例えば「庫子之禮七」「首座之禮八」「杖拂牌送禮十四」「巳時三十三」「諸堂諷經三十五」「西堂參暇禮二十六」「都聞交代三十七」等のように、全く先行する清規に確認できないものがある。特に「住持茶禮十」「知事茶禮十一」「首座茶禮十二」等の一連の茶礼関係は、禅宗の茶礼を考える上でも今後、後世の各清規との比較は重要であろう。

次に、「前任入牌二十二」のように先行する清規は『東漸清規』のみであるが、その後の清規には数多く確認できるもの等がある。そのような一例として最後の「衆寮諷經三十九」は、先行する清規には確認できないが、後世「結解制衆寮諷經」（諸回向一T81.631c）「衆寮諷經」（侍者寮・統曹清425a）等多くの清規に確認できる。

また、先に成立の時期を考察するのに引用した、「前任入牌二十二」の項目などは相国寺におけるその当時の実状を詳らかにしている。さらに、既存の先行する清規に項目はあるが、記述は類似のものばかりではなく、厳密な比較においては本清規独自の面が強く確認できる。

以上のように、他の清規との比較を通して、相国寺における儀礼の問題点のみでなく、後世への展開等に関して

も明らかにすることが出来ると考えられる。

*最後に、本資料の閲覧及び翻刻を御快諾下さった駒澤大学図書館及び資料の閲覧を賜った京都大学文学部図書館に対し一言記して謝意に代えたい。

凡例

- 一、駒澤大学図書館所蔵、『略清規』（相國寺日用軌範、叢規口實）（〇八五—一〇）の翻刻である。
 - 一、翻刻に当たっては、京都大学文学部図書館所蔵、『叢規口實』（略清規）（Ind.Ph-Q-38）を参照した。
 - 一、本清規は、二六丁で欠丁はない。なお、「京大本」には、句読点及び・」の朱点、人名・地名・寺名の朱線が確認できるが、特に指摘しなかった。
 - 一、翻刻にあたっては、項目の改行箇所以外は、頁分け・改行箇所・空白等は全て送りとした。但し、道忠の識語、目録部、玄興の序、一七丁の書き込みは、この限りではない。
 - 一、返り点・ルビに関しては、原本に忠実おこなった。
 - 一、字体の相違もできるだけ原本通りとした。
礼—禮・仏—佛・參—參等。
- しかし、俗字・異体字・略字に関しては全部、あるいは部分的に字体をあらためたものもある。
- 事—亶・離—离・燭—烛・帰—皈・匝—迎等。
- 一、傍注に関しては、該当個所にそのままの形式で示した。

- 一、虫損等で不明の文字は字数に応じて□で示し、「京大本」を参照の上、傍らに「」で補った。また、「京大本」の字句の異同も「」で示した。
- 二、（）で示したのが丁数である。なお_口は表裏を示す。
- 一、句読点は、便宜的に筆者が付した。原本には、句読点は一切ないが、「京大本」には一部確認できるのでそれを参照した。

叢規口實（外題）

題叢規口實首

余撰小刹之略清規之明年、又得相國寺清規。又題曰略清規、定慧圓明國師親書、數語於卷首爲證明而禱題則曰叢規口實、蓋亦國師之親書也。余忻然揮毫謄之其間文字舛謬極多隨書是正焉。疑者猶存而候問（I a）時讎校矣。此年又得大鑑清規元本、對覈正脱行遺字者不少。舊疑氷泮。又寫得鎌倉清規・備用清規皆難得之書也。蓋如有神物集將來盡授我者也。

法山龍華道忠識（I b）（以上、駒大本にナシ）

叢規口實目錄

翻刻・駒澤大学蔵『略清規』（叢規口實）

- | | |
|----------------|----------------|
| 土地堂念誦一 | 大茶湯二 |
| 小參三 | 粥僧堂四 |
| 祝聖五 | 上堂六 |
| 庫子之禮七 | 首座之禮八 |
| 巡堂九 | 住持茶禮十 |
| 知事茶禮十一 | 首座茶禮十二 |
| 首座寮湯禮十三 | 杖拂牌送禮十四 |
| 秉拂十五 | 秉拂管待齋禮十六（II a） |
| 兩班投交之禮十七 | 佛涅槃十八 |
| 二祖宿忌十九 | 同獻粥二十 |
| 同半齋二十一 | 前住忌二十二 |
| 前住入牌二十三 | 衆寮小茶湯禮二十四 |
| 結制之禮二十五 | 入寺儀式二十六 |
| 上堂秉拂禪客就侍香寮禮二十七 | |
| 退院上堂二十八 | 旦望上堂二十九 |
| 上堂歸巡堂三十 | 八念誦巡堂三十一 |

初更五更坐禪三十二 巳時三十三(II b)

坐參三十四 諸堂諷經三十五

西堂參暇禮三十六 都聞交代三十七

大坐參三十八 衆寮諷經三十九

南化和尚弁語一首(III a) (以上、駒大本にナシ)

略清規(内題)能寅(1 a)

此一卷相國寺日用軌範也。

蓋与建仁同妙心攀建仁

之例者濫觴乎無因和上

者也。華溪玄興書焉(1 b)

土地堂念誦 一

堂司能傳 [華押]

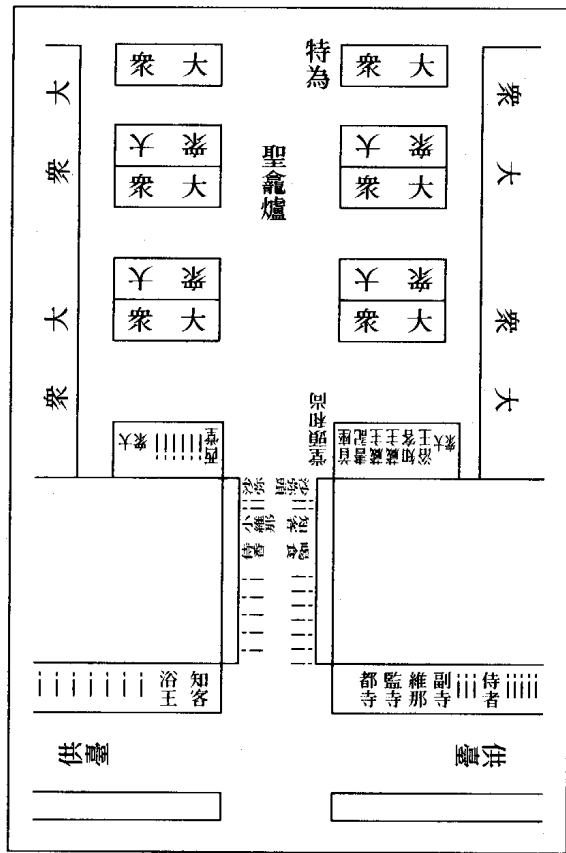
堂司首座寮都寺寮方丈二案内申了、庫子茶堂シ板ヨリ打始テ首座寮僧堂庫子ノ板ヲ打。即大鐘ヲ鳴、即住持茶堂ヲ出、庫子ヨリ焼香ノ、山門僧堂マテ焼香、了佛殿之後門ヨリ入テ普庵祖堂。次ニ正面ニ立侍者ハ上間ニ立班シ、沙

喝ハ下間ニ立²□。住持進テ本尊ニ焼香シ、位ニ歸テ三拜之時、行者磬ヲ鳴ス、同三拜了テ住持後門ニ歸テ、念誦之圖之末ヨリ問訊ノ、□^{角々}ニテハ其問訊ヲアラタムヘシ。西堂マテシ了テ、土地堂之中央ニ立テ、進テ小問訊ノ焼香位ニ歸ス。即出班焼香ノ鉞ヲ鳴ス。維那位ヲ離テ卓脇ニ立ツ。次ニ住持ヲ請ル、鉞ノ頭ニケ鳴ス時、維那小問訊、侍香位ヲ離テ香合ヲ持テ住持ノ後ニ立ツ。住持進焼香位ニ歸ス。同侍香ハ香ヲ一ツニ分チ位ニ歸ス。次首座都寺ヲ請ル。鉞ノ頭ニケ鳴。維那小問訊、悉シ了、但借香謝香問訊アルヘシ。同鉞ツキアケテ即時ニ維那念誦ヲハシム。同回向間ニ都寺位ヲ離テ茶湯ヲ合テ正面ニ出、銀錢處ニ捨テ直ニ僧堂ニ至ルヘシ。

大茶湯 二(2a)

其日齋歸ニ、都寺方丈ニ上テ、住持ニ對メ小問訊ノ、進テ香ヲ立触礼メ去。次首座寮ニ詣ス、都寺寮ノ行者、盆ヲ飾テ力者ニ持也。都寺ノシリヘニシタカウ、盆ヲ首座寮ノ客殿ノ中央ニ置テ去レハ、都寺与首座對メ小問訊ノ、先都寺進テ香ヲ焼、勝ヲ取テ首座ニ出ス、首座勝ヲ取テ還香ナシ。次触礼メ歸去。首座都寺ヲ送テ、縁ニ小問訊メ了。此勝ヲハ自首座寮供頭ニ渡之、供頭請取テ僧堂ノ下間ノヘ□⁴柱ニ貼之。又上間ニハ免事ノ勝ヲ請客頭貼之。同蠟燭ヲトホス。都寺ハ念誦ノ回向ノ間ニ、茶湯ヲ捨テヨリ、僧堂ニ至リ湯鼓ノ鳴ヲ待。同ク庫子ノ鼓鳴ハ、都寺ハ明樓ノ上間ニ立ツ。大衆ハ都寺ニ問訊メ入堂。次ニ西堂一例^{例(同)}ニ問訊メ入、次ニ頭首一例ニ問訊メ末ヨリ入堂ニ知事ハ都寺ノ後ヲトヨリ名ノ前ニ立。悉ニ入堂シ了、都寺堂ニ入テ首座ニ問訊ス。首座位ヲ離テ特為ニ立。次後堂ニ問訊ス、後堂位ヲ轉上ス。又後堂ニ問訊メ、特為ニ問訊メ、龕ヲ巡テ堂□^出。住持ニ問訊、即住持堂ニ入ル。供頭鐘ヲ鳴コト七下。住持位□^立。即都寺堂ニ入テ住持ニ問訊。又特為ニ問訊メ、龕ヲ巡テ巡堂一匝、明樓マテシ了。中央ニ問訊、大衆坐ニナナル。是一座之礼。供頭堂ニ入テ(2b) 炉ヲナラシ去、都寺龕前ニ進テ焼香、八所ニ焼了テ、特為ニ問訊、龕ヲ巡テ住持ニ問訊、而巡堂一匝メ、中央ニ問訊メ、唱物スル處ニ立。即鐘ヲ二下

鳴。同蓋ヲ入。次二瓶又悉ニ出了時、都寺特為ニ問訊ノ、龕ヲ巡テ中央ヨリ少下間ヨリニノ大展三拜。巡堂一匝。此巡堂ノ間ニ住持ト特為トノ蓋ヲ取ヘシ。都寺明樓マテ巡堂ノ、同諸知事ヲ引テ堂ニ入□、住持ト對ノ兩展触礼ノ、龕ヲ巡テ堂ヲ出、住持ハ本ノ如ク位ニナラル、蓋ヲ持ス。諸知事堂ヲ出ルアトニ特為モ同ク堂ヲ出。明樓之上下□□、知事ト對ノ触礼ノ首座ハ去ル。都寺独り堂ニ入、中央ニ問訊而去。是一湯之礼。同鐘ヲ一下鳴ハ蓋ヲ悉舉、又鐘ヲ三下鳴ハ同時ニ太鼓ヲ三打。同堂司庫子開山諷經、案内ヲ申テ堂前ノ鐘鳴セハ、大衆悉ク開山塔ニヲモムク。開山諷經ハ如常。同諷經歸ニ侍香方丈ニ詣メ來晨上堂ヲ報スル也。(3a)



(3b)

小参 三

其日ノ齋婦ニ、侍香方丈ニ上テ、晩間ニ小参ト報メ去。請客頭侍香寮ニイタリ、小参ノ牌ヲ取出シ、昏鐘鳴ト云小牌ヲシテ、再請ノ鐘ヲ鳴ヲ聞テ、堂前ノ上間ニカクル也。即晩ニナレハ、請客頭ハ首座都寺ニ案内申テ、侍香ニ

案内申ス。侍香即方丈ニ上テ、住持ニ案内ヲ申。請客頭侍者ノ出ヲ見テ茶堂ノ板ヲ鳴ス、同鼓ヲ打。但シ一通。住持茶堂ニ出、椅子ニ坐ス。即侍者一例ニ問訊而去。次ニ沙喝行者、同問訊ノ去了。其後侍香住持ニ問訊ノ、法堂ニ至リ兩班ノ入ヲ見ル。即兩班法堂ニ入レハ、侍香茶堂ニユキテ、住持ニ問訊、即住持法堂ニユキテ、如常ノ登ル。侍者一例ニ問訊而去。悉西堂マテ問訊シ了テ、侍香座ニ登リ焼香ノ、住持ニ問訊ノ、拂子ヲ出ス。説法了テ西堂山門ノ兩序ヲ悉謝、了時侍者住持ニ目子ヲ出ス。即取テ單寮蒙堂マテ讀了テ侍者ニ出ス。小参悉ク了、住持下座ノ、住持兩班ニ問訊スル時、知客頭進テ云、兩班西堂大勤舊侍者禪学茶堂点湯、ト云テ板ヲ鳴ス。悉ク茶堂ニヨモムク。住持位ニ立、侍香八面ノ上間ニ立テ衆ヲ請ス。悉ク入了テ板ヲ打。侍香堂ニ入問訊、是即一坐之礼。即座ニナリ了テ、進(4a)テ焼香ノ位ニ帰テ問訊、同時板ニ下鳴ス。是一香。即盞ヲ入、悉了テ侍香一足進テ問訊。同時二板ヲ一下打。是一湯之礼。侍香堂ヲ出去ル。同盞ヲ舉了ヲ見テ下座ノ板ヲ鳴ス。大衆下座ノ卓ノ前ニ進問訊。了西堂ハ一例ニ又謝湯ノ礼ニ問訊アリ。頭首ハナラシノタメニ法堂ニ□モムク。今即兩班西堂、同時一位ヲ下テ問訊アリ。不限西堂也。

粥僧堂 四

十八鐘ヲ聞テ知事ト知客ト堂ニ入テ、聖僧ニ問訊ノ位ニ立、住持ハ問訊ノ鼓ニ通目ニ堂ニ入テ、下座ノ問訊ノ椅子ニ座ス。但鉢ヲロシノ板ヲ打時、聖僧ノ佛餉供頭ニモタセテ、侍聖取次テ供シ去。供頭ハ龕ヲ巡テ外堂ニ出、維那ニ問訊シ、了維那堂ニ入テ龕前ニ焼香ノ椎ノソハニ立ツ。其後問訊ノ鼓ト鐘打アクル時、椎一下ス。即沙喝行者参不信審ヲ唱テ位々ニ帰ル。唱物ノ喝食、堂ニ入テ龕前ニ進テ問訊ノ、又首座ニ問訊ノ龕ヲ巡テ聖僧床ノ板頭ニ立。参頭堂ニ入テ大衆ノ鉢開キ了ヲ見テイシタウヲ唱ヘサス。次維那十佛名ヲ始ム。十佛名終テ首座粥願祝悉了テ飯粥ヲ唱ウ。即給仕ノ行者堂ニ入ル。維那ハ立僧□板頭ニ立。次ニ念文ノ喝食、堂ニ入り、中央ニ問訊ノ、首座ニ問訊シ

龕(4b)ヲ巡テ聖僧前ノ炉ノ前ニ立。粥引了テ給仕外堂へ出ル時、維那進テ椎ヲ一下ノ堂ヲ出。次粥菜ヲ唱ウ。同僧堂記ヲ始ム。同讀了テ首座ニ問訊ノ、龕ヲ巡テ堂ヲ出。次再請ト唱時、堂前ノ鐘ヲ二下鳴ス。同引了給仕堂ヲ出時、堂子ハ巡堂ト点茶牌ヲ堂前ノ下間ニカクル也。請客頭ハ堂内ニ入テ諸頭首ニ請答之間訊ノ、龕ヲ巡テ堂ヲ出テ知客ト同諸知事ニ問訊而去。西堂單寮ノツク時ハ、後堂床ヨリ出テ、逐一ニ問訊ノ出入板ヨリ堂ヲ出。次セツシノ桶出ル時、參頭龕前ニテ撰時、侍聖椎ヲ一下スル時、下堂ノ鐘ヲ三下鳴ス時、即唱物喝食曰、シンー首座大衆祝聖諷經、ト云テ侍者沙喝行者ハ、明樓ノ上間ニ立。住持問訊ノ堂ヲ出。侍者モ同出。次ニ知事ト知客浴主ト問訊ノ去。又諸頭首問訊ノ去。茶堂ノ礼ニヲモムク也。同茶堂ノ礼ハ小參歸ト同、悉ク了輪藏ニヲモムク。

祝聖 五

兩班立定テ住持進テ焼香ノ位歸ル時、堂司庫子磬ヲ鳴ハ、維那摩訶般若波羅蜜多ト始ム時、鉦鼓ヲ打、同無言行道、同散鐘打ヲ兩班ハ立班ス。又磬ヲ打ヲ大悲咒消災咒、同回向了テ、堂司(5a)庫子曰、崇壽院諷經ト云ハ大衆悉ク開山塔ニヲモムク。同献粥了テ後沙喝ハ輪藏ニ至リ、祝聖ヲスル也。但四節計、毎月旦望ニハ佛殿ニテスヘシ。

上堂 六

曉ノ坐禪、歸ニ侍香住持ノトモノ茶堂ノ前ニテ今晨上堂ト報ス。請客頭点ノ長ハタカク時、侍香寮ヨリ上堂ノ牌ヲ取出シ、堂前ノ上間ニカク。次開山諷經了、堂司庫子、首座寮へ居堂ノ案内ヲ申テ、堂前ノ板ヲ三下打。即頭首堂ニ入、坐禪、知事モ居堂ヲ聞キ、明樓ニ至ヘシ。請客頭ハ此板ヲ聞テ、都寺寮ニ案内ヲ申、侍者寮ニ到リ、祝聖シ香ヲ取出シ、法堂上ニ置ク。侍香方丈ニ上テ、上堂ノ案内ヲ申ス。請客頭承リ、次テ茶堂ノ板ヲ三下打。即鼓ヲ鳴ス。住持茶堂ニ出、位ニ坐ス。侍香一例ニ問訊ノ去。次沙喝行者同シテ位ニ去。鼓ニ通ノハタカク時、侍香位ヲ離テ住持ニ問訊ノ。法堂ニ至リ頭首來ヲ見、頭首ハ鼓ヲ聞テ堂ヲ出ツ。知事モ鼓ヲ聞テ東明樓ニ至リ廊下ニ立ムカイ

テ問訊ノ、法堂ニ至リ座前ノ問訊メ立班ス。侍香、頭首ノ入ヲ見テ茶堂ニ至リ住持ニ問訊メ、位ニ立ツ。住持下座ノ（5b）侍喝ニ問訊メ、法堂ニ至リ中央ニフトウ問訊メ登座ス。侍者モ同登^テ祝聖ノ香ヲ住持ニ出ス。住持香ヲ拈シ了テ、侍香ニ出ス。侍者請取テ香炉ニ立、右ノ手ニテ香ヲ焼下座。住持ハ椅子ニ坐ス。次ニ侍者ヨリ始メテ兩班西堂マテ問訊メ、後侍香又登座ノ焼香メ、住持ニ問訊メ拂子ヲ出ス。此時焼香ヲハ左ニテスヘシ。悉ク説法了テ、下座ノ兩班ニ問訊メ、法衣ヲカケカエテ礼在リ。法堂承仕、卓ヲ飾リ、法座ノ香炉ヲ取り下シテ置、兩方ニ燭臺行灯ヲ置。住持ノ香合ノフタヲ開テ、辨香ヲ取出シ置キ去。先西堂進テ逐一ニ香ヲ立位ニ帰ル。住持還香、即触礼ノ、西堂ハ去、庫子ニ至ル。次知事一例ニ出問訊メ、都寺香ヲ立、位ニ帰ス。住持還香ノ、兩展触礼ノ去、庫子ニ至ル。次ニ頭首一例ニ問訊メ、首座香ヲ立、位ニ帰ス、住持還香問訊メ、法座ノ脇、西南ムキニ立。次單寮蒙堂頭々逐一ニ香ヲ立、位ニ帰ス。其後住持還香、又頭首一例ニ諸勤舊之面ニ立テ、触礼ノ去リ庫子ニ至リ、ソコニテ同礼アルヘシ。次侍者一例ニ住持ノ前ニ立、住持ハ曲杵ニ坐ス。侍香位ヲ離テ香^ヲ立、大展三拜ノ去ル。巡堂ニヲモムク也。次沙喝行者一例ニ住持ノ前ニ立。其時モ住持ハ曲杵ニ坐ス。沙弥頭進テ香ヲ立、位帰ス。次ニ參頭香ヲ立、（6a）位ニ帰ス、大展三拜ノ各退。住持ハ堂前ニ至リ巡堂ヲ可待。

庫子之礼 七

知事上間^南ニ一例ニ立ツ。頭首西堂大衆^北ハ下間ニ立ムカイト触礼去、僧堂ニヲモムク。知事ハ大衆ノシリヘニ行テ明樓ノ名ノ前^所ニ可立。

首座之礼 八

首座位ヲ離テ明樓ノ上間^北ニ立、下間^南ニハ後堂頭首西堂大衆立。重テ触礼ノ去リ、巡堂ノ圖ニ立ツ。

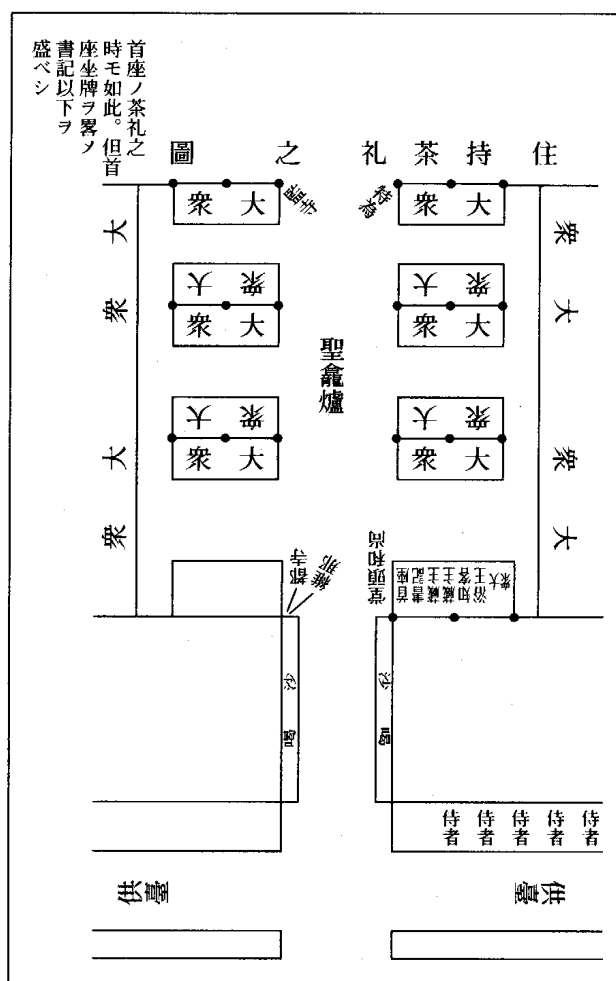
巡堂 九

首座先位ヲ離テ堂ニ入り、聖僧ニ問訊メ名ノ前ニ立。次西堂問訊メ位ニ立。次ニ後堂衆ヲ引テ堂ニ入ル時、維那堂司庫子、堂ニ入り龕ノ下間ニヨリ後ヲトヲリ上間ノ出入板へ出テ、大衆ヲ悉ク引テ龕ヲ巡テ堂ヲ出ツ。首座位ヲ離レ龕前焼香、大展三拜、巡堂一匝メ位ニ歸ス。堂司庫子喝メ曰、首座礼謝大衆、ト云ハ即触礼在リ。次ニ知事堂ニ入テ龕前ニ一例ニ立、都寺位ヲ離テ焼香、各大展三拜巡堂一匝メ、聖僧床之板頭ニ立時、堂司庫子喝メ、知事礼謝大衆、ト云ハ触礼。次供頭堂前鐘鳴スコト七下、住持堂ニ入テ、^{〔龕〕}前焼香大展三拜、巡堂一匝位歸。但シ住持ノ巡堂スル時、侍者龕後ノウシロムキニ立ヘシ。住持位ニ歸スル時、堂司庫子喝メ曰、堂頭和尚大衆ト人事、ト云ハ即触礼。又大衆不同作礼、ト云ハ即触礼。悉了テ知事ハ堂ヲ出位ニ立。同聖僧侍者龕後ヨリ各侍者ヲ引テ堂ヲ出^{〔名〕}名前ニ立。侍者堂ヲ不出。中央ニ立問訊、即大衆床ニ坐ス。聽叫堂ニ入テ^{〔合〕}合ヲ炉ノ脇^{〔側〕}ニ置テ去ル。侍香龕前ヨリ八所ニ香焼了テ、又同八所ニ問訊メ中央ニ歸テ問訊メ立。即堂前鐘ヲ二ケ鳴ス。同蓋ヲ入。但西堂ト首座トニ喝食手取在、悉ク瓶出了テ侍香八所ニ問訊メ中央ニ歸テ問訊メ堂ヲ出ル時、堂前鐘一ケ鳴ス。同蓋ヲ舉了時、下座鐘三ケ鳴ス。住持堂ヲ出、明樓之上間立。知事頭首立、重テ住持ニ對^{〔問〕}問訊。住持畧^{〔送〕}問訊而皆悉ク堂ヲ出也。

住持茶礼 十

請客侍者兼日ニ紙ヲ持テ方丈ニ上、茶礼ノ勝ヲ申出メ、即請客頭ニ其日ノ開山諷經歸、侍客請客頭ヲツレ、盆ヲ力者ニ持セテ首座寮至ル。客頭盆ヲ客殿ニ置キ、火トホシテ去。侍客内ニ入テ首座ニ對メ小問訊メ香ヲ焼キ、勝ヲ出位ニ歸ス。首座請取テ同還香メ、勝ヲ^{〔7a〕}當寮ノ卓ニ置キ、位ニ歸ル。触礼メ縁ニ送問訊メ去了。同勝ヲ^{〔8〕}供頭方へ渡之、供頭請取テ、僧堂ノ上方ノヘイ柱ニ貼之。其日ノ齋僧堂ノ鉢下ノ板打時、聽叫堂ニ入テ香合ヲ龕前ノ卓ニ置去。次ニ侍客堂ニ入り龕前焼香メ中央ニ歸テ大展三拜メ自首座床ヨリ巡堂一匝メ堂ヲ出ツ。但明樓マ

テノ中央ニ帰テ問訊、堂ヲ出、位ニ帰ス。同齋僧堂悉クハ□了テ、住持ハ方丈ニ帰ス。頭首寮ニ帰。茶礼特為ノ屏風氈曲桌□^等又座牌ヲモル事モ侍客方ヨリコレヲス。供頭ハ知事ノ爲ニ聖僧床板頭ト立僧床ノ板頭ト□^三長連床ヲコシラヘル也。茶礼ノ時分ニ供頭ハ方丈都寺首座ニ案内申テ、庫子ノ鼓ヲナラサスル也。即侍香明樓ノ上間ニ立テ大衆ヲ請スル也。次西堂頭首、次ニ知事ハ浴主ヨリ堂ニ入ヘシ。次ニ是モ末ヨリ入ヘシ。悉入了侍香堂ニ入り、首座ニ問訊ス。即位離テ特為ニ至ル。次ニ後堂ニ問訊、即位轉上ス。侍香又後堂ニ問訊ス。次ニ特為ニ問訊ノ、龕前ヲ巡テ堂ヲ出テ、即住持ニ問訊ス。供頭鐘ヲ鳴コト七下、即住持堂ニ入テ位ニ立。聽叫ハ香合ヲ龕前ノ卓ニ置去。次侍香堂ニ入テ住持ニ問訊、特為ニ問訊ノ、巡堂一匝、明樓マテシ了、中央ニ帰テ小問訊ス。即大衆坐ス。是一坐ノ礼也。次ニ供頭堂ニ入テ炉ヲ直（7b）ス。侍香進龕前焼香、八所ニ焼了、香合ヲ龕前ニ置テ、特為ニ問訊、龕ヲ巡ラス、又巡堂一匝ノ中央ニ立。即鐘鳴スコト二下、手取ハ後堂特為西堂ノ頭、〔光か〕去伴ノ知事、床頭ノ蒙堂皆悉入。同瓶出ル時、侍香特為ニ問訊ノ、龕ヲ巡テ中央ニテ大展三拜。巡堂一匝、明樓マテシテ、ソコニ待。巡堂之間ニ、住持ノ蓋ト特為ノ蓋トヲアクル。特為住持ノ前ニ進テ兩展触礼ノ龕ヲ巡テ堂ヲ出ツ。同住持送テ明樓ニテ問訊ノ、住持ハ位ニ帰ス。特為ハ去。法堂ノ内ニテ住持ヲ待。又侍香堂入テ、龕前ニ問訊ノ進テ光伴香ヲ焼、香合ヲ、サメ、中央ニ問訊シテ堂ヲ出。同鐘ヲ一下鳴セハ悉蓋ヲアクル。又履カキノ沙喝出レハ鐘ヲ三ケ鳴ス、大衆悉ク堂ヲ出。同時鼓ヲ□^三打、住持方丈ニ帰ス時、特為ノ首座、茶堂ノ前ニテ住持〔二對ノ〕問訊ノ、タカイニ去了。可有光伴香。（8a）



(8b)

知事茶礼 十一

都寺兼日ニ紙ヲ持、方丈ニ上テ茶礼ノ勝ヲ可申。其日粥飜経帰ニ都寺函丈ニ上テ礼在。大坐湯ト同。次ニ首座寮ニ至リ勝ヲ送。礼大坐湯ト同シ。又齋僧堂ノ鉢下シ打時、都寺堂ニ入り龕前焼香ノ中央ヨリ少下間ニテ大展三拜、巡堂一匝ノ中央ニ問訊ノ堂ヲ出ツ。特為ノ坐敷ヲコシラへ、又坐牌ヲ盛ベシ。即齋僧了テ供頭首座寮方丈ニ案内申鼓ヲ鳴ス。^{ナラス}都寺僧堂ニ至リ、明樓ノ上間立テ大衆ヲ請ス。其外ノ礼ハ大坐湯ト同。光伴香ナシ。

首座茶礼 十二 不可有光伴香

其日ノ粥飜経帰ニ首座ハ方丈ニ上テ住持ニ對メ香ヲ立、触礼ノ歸去ル。首座先我寮ニ歸テ盆ヲ飾リ状ヲシタ、メテ、力者ニ持セ、行者具ノ後堂□^寮ニ至ル。行者盆ヲトリナラシ、客殿ノ中央ニ置テ火ヲトモシ去ル。首座内ニ入テ小問訊シ香ヲ焼、状ヲ後堂ニ出ス。後堂状ヲ請取テ還香ノ、即触礼ノ去。后板送、下エヲリテ問訊、タカイ

二歸去。其後狀ヲ供頭ちゆうニ渡。供頭請取テ僧堂ノ下間ノ□□ニ貼之。同齋ノ鉢下シ打時、首座堂ニ入り龕前ニ進テ、燒香中央ニテ大展三拜。巡堂一匝、明樓マデシ了テ、(9a)堂ニ入テ問訊ノ了。同齋僧堂了テ首座寮ヨリ特為ノ座敷ヲ飾リ、明樓ニハ坐勝ヲ盛ベシ。聖僧床板頭立僧床ノ板頭ニ長連床ヲ置ヘシ。其後供頭都寺寮方丈ニ茶礼ノ案内申テ鼓ヲ鳴ス。首座明樓ノ上間ニ至リ、大衆ヲ請シ、次ニ西堂、次ニ頭首、次ニ知事、悉請了テ、首座堂ニ入テ後堂問訊、位ヲ離テ特為ニ至ル。次ニ書記ニ問訊ス、即讀記位ヲ轉上ス。又書記ニ問訊。又特為ニ問訊ノ、龕ヲ巡テ堂ヲ出、住持ニ問訊ス。即住持堂ニ入テ位ニ立。同時ニ供頭鐘ヲナラス事七下。鐘ナレハ鼓ヲ打アクヘシ。即首座堂ニ入テ住持ニ問訊ノ、特為ニ問訊ノ、龕ヲハ巡ライテ首座床ノ頭ニ問訊ノ、巡堂一匝、明樓マデシ了テ中央ニ歸テ問訊。大衆皆坐ス。是即一座ノ礼。即供頭炉ヲ置テ去時、即進龕前ニ燒香、八所ニ燒香了テ、特為ニ問訊、龕ヲ不巡ノ、タ、チニ住持ニ問訊、巡堂一匝了、是一香ノ礼。同時鐘ヲ二下鳴セハ蓋ヲ入ル、瓶モ入。又悉出了テ、首座特為ノ前ニ進テ問訊ノ、龕ヲ巡テ三拜ス。首座床ヨリ巡堂一匝、此間ニ住持ト特為トノ蓋ヲアクヘシ。首座巡堂了テ住持對ノ兩展触礼、龕ヲ巡テ堂ヲ出。住持又位ニ坐ス、蓋ヲ持ス。次後堂首座龕ヲ巡テ堂ヲ出ツ。明堂ニテ首座ニ對メ触礼メ去。后堂ハ去ル。首座ハ(9b)堂ニ入中央ニテ問訊ノ堂出時、鐘ヲ一ケ鳴ス。一茶礼了ス、即沙喝給仕ノ行者、堂ニ入テ蓋ヲ舉ヘシ。同舉了下座ノ鐘ニケ鳴ス、同鼓ヲニケ打之。大衆悉堂ヲ出去。

首座寮湯之礼 十三

僧堂ノ茶礼了、首座寮ノ行者メ給仕ノ小僧ヲ請置テ、後堂寮以下又當寮ノ行者メ湯ノ案内ヲ申。頭首集テ上下間ノ曲桌ノ前ニ立。首座客殿ニ入テ中央ニ問訊メ進テ燒香ノ中央ニ歸テ問訊メ位ニ立。即曲桌ニ坐ス。即湯ヲ入ル。舉サマニハ別ノ給仕ニテ取可シ。悉湯了、主位ノ方ニヨツテ一例ニ立。杖拂礼ヲ待ヘシ。

杖拂牌送礼 十四

首座寮ノ湯罷焼香侍者請客頭ヲ具シ、盆飾杖拂牌ヲ力者^三持テ首座寮ニ至ル。請客頭盆ヲ取ナラシ客殿ノ中央ニ置。火ヲトホシ去時、都寺維那侍香客殿ニ入り、一例ニ立向テ問訊ス。侍香位ヲ離テ焼香ノ位歸ス。次ニ首座還香ノ位立。即触礼了侍香首座ノ前ニ進ム。請客頭拂子ヲ持テ侍香ニ出ス。侍香請取テ首座ニ出ス。首座少拈テ後堂ニ出ス。悉拈終時、首座寮ノ看寮請取也。又侍香進(10^a)テ杖ヲ取ツク、同拈了次請客頭牌ヲ持メ首座ノ前ニ進ム。西藏主マテ頂戴シ了。又看寮請取了テ廊下ニ出送テ問訊了。當寮ノ行者ノ侍香寮ヨリ具シ來、力者ニ持テ西藏主寮ニ送之。同西藏主ニ請取テ、牌ニハ今晚ト云小牌ヲ推テ、西藏ノ看寮今ノ力者ニ持テ堂前ノ下間ニ掛也。杖拂ハ秉拂ノ時分ニ法堂承仕來テ請取法座ニ置也。同杖拂ノ礼了テ、五頭首方丈ニ上ル。客殿ノ縁ニテ住持對メ問訊メ、内ニ入テ中央ニテ問訊メ、イマハ触礼メ去。住持送テ問訊メ去了。其時位ヲ離テ法座ヲ借爲ニ問訊メ、法座ト申去。次ニ五頭首侍香寮ニ至ル。同侍香廊下ニ出問訊メ了、其マ、頭首ハ寮々ニ歸。秉拂之案内ヲ待也。但アケ了テ縁ニ送出、問訊了也。又首座ニハ禪学^客ト侍聖^客トノ礼在。即禪学^客聖僧侍者來テ曲杓ノ前ニ立。首座客殿ノ中央ニテ問訊メ香ヲ焼キ、位ニ坐ス。同湯ヲ入ル。又舉了テ下座ノ問訊メ去了。又其後請客頭首座寮ニシコウノ秉拂ノ案内ヲ窺。

秉拂 十五

既ニ秉拂時分ニナレハ、請客頭下ノ頭首ニ案内ヲ申ス。即衆集テ首座寮ノ客殿ニ入曲杓ノ前立ツ。次ニ首座客殿ニ入テ進テ焼香(10^b)ノ位ニ歸テ坐ス。其後煎物藥悉了ヲ見テ、請客頭首座寮ノ前ノ板ヲ打チ、法堂ノ下間ノ鼓ヲ打。頭首ハ法堂ノ正面ヨリ入テ立班ス。其後行灯ノ行者茶堂ニ至ル。住持法堂ニ至リ法座ノ脇ニ立。屏風曲杓ハ侍者寮ヨリ飾也。次ニ三大禪師首座前ニ進テ問訊メ位ニ立。即首座問訊ヲ請ケテ、住持ノ前ニ至リ問訊ス。次都寺ニ問訊メ、其問訊ヲ持チ直歲ニ了。又後堂ニ問訊メ、其問訊ヲ持テ浴主同大衆ニ問訊メ、座ニ登ル。侍者ヨリ兩班西

堂ニ至ルマテ問訊在。其後住持ノ問訊ノ時ハ、下座ノ請ル也。ソコニテ立ナヲリ炉ニムカイテ云、侍者請和尚跌座、ト云テ、椅子ニ坐ス。即侍聖位ヲ離テ住持ニ問訊ノ、座ニ登リ香ヲ焼キ、坐具ヲ手ニ持テ問訊ノ、拂子ヲ出。同取テ佛事云々。其間侍聖ハ椅子ノ脇脇ニ立。佛事了テ頭首下座スル時、拂子ヲ取テ炉ノ卓ニ置テ同下座ス。頭首下座ノ住持ノ前ニ進テ問訊ノ、触礼ノ趣アレハ、住持辞退ス。又謹テ問訊ノ位ニ歸ス。イツレモ五頭首ハ如此。悉乗拂終レハ、請客頭小參ノ如ク唱メ、茶堂ノ板ヲ鳴。礼ハ小參歸ト同。アントンノ行者ハ首座寮マテトモスル也。次ニ其明日ノ粥僧堂ノ再請鐘鳴テ五頭首ニ請茶ノ問訊ノ龕ヲ巡テ堂ヲ出。同粥諷經了レハ茶堂ノ板ヲ鳴（11a）ス、頭首來テ西堂寢堂也床ニハ前堂書記西藏主、單寮床ニハ後堂東藏主、礼ハ小參歸ト同。

乗拂管待齋之礼 十六

兼日ニ請客侍者方ヨリ請帳給テ其衆ニ報ス。但我名下ニ謹奉ト書ヘシ。但住持ト東堂ニハ侍客來日方丈ニ齋ト報スヘシ。首座ニハ其日ノ粥諷經歸ニ盆ヲ飾リ力者ニ持セ、請客頭ヲ具ノ首座ニ至ル。請客頭盆ヲ客殿ノ中央ニ置テ火ヲトホシ去。侍客内ニ入り香ヲ焼キ位ニ歸ス。首座還香ノ位ニ立。即触礼ノ去。送テ下縁ニテ問訊ノ去。同方丈ノ客殿ヲハ請客侍者方ヨリ飾ル、坐牌盛事モ同。次齋ノ時分ニ供頭方丈ニ案内申テ火鈴ヲ振ヘシ。即衆集ル時、侍香侍客ハ客殿ノ上間ニ立双ヒ衆ヲ請ス。侍聖次ニ仏誕生、次ニ小參、次ニ上堂、イツレモ末ヨリ入ヘシ。大衆入了テ後頭首可入。其後住持、次ニ侍香侍客、五頭首ハ一例ニ問訊ノ是モ末ヨリ入ル。悉入了テ位ニ立。侍香侍客内ニ入り直ニ兩方逐一ニ問訊ノ中央ニ問訊ス。是一座ノ礼衆悉ク坐ス。侍香進テ香ヲ焼キ、頭首前ニ逐一問訊、中央ニ歸テ立。湯入悉瓶出了テ、又逐一問訊ノ中央問訊ノ歸テ住持ニ問訊ノ我位ニ坐ス。侍香侍客湯ヲ吞了飲テ、（11b）次ニ齋ノ膳ヲ入。悉終テ同菓子モ了ル。其間ニ引物ヲ引也。即菓子引物ヲ舉了テ、即大衆皆下座ノ位ニ立。但今ハ立ツ事ヲ畧ノ其マ、茶礼ノ礼在。侍香侍客ハ位ヲ立テ先外へ出ツ。次ニ請客頭茶礼ノ鼓ヲ鳴ス。即侍者内ニ入テ中

央ニ立テ、侍香進テ香ヲ焼。スクニ頭首ノ前ニ至リ逐一問訊ノ中央ニ歸テ問訊ス。是一香ノ礼、天目ヲ入ル。同吞了テ侍者五頭首ノ前ニ至リ、逐一問訊ノ中央ニ歸ル。即侍香進テ光住香(伴か)ヲ焼テ中央ニ歸テ、兩侍者同時ニ問訊ス。即大衆盞ヲアハス。悉舉了大衆下座ス。同鼓ヲ三ツ打也。五頭首ハ中央ニ出テ住持ニ對シテ觸礼ノ去ル。住持畧送テ問訊。又東堂ノ來ル時ハ下ヘヲリテ問訊、不來時ハ縁ニテ問訊。悉去了、次ニ謝上堂。其兼日ノ放參歸ニ侍香茶堂ノ前ニテ來上堂ヲ報ス。但曉ノ礼ハ無シ。牌ヲハ請客頭掛也。

兩班投交之礼 十七

即齋歸茶堂ニテ礼在。七人報ス。西堂ノ頭單寮ノ頭、當都文都官ノ頭、都寺頭請客頭礼ヲ報ス。同來集ル請客頭住持ニ案内ヲ申、住持來テ椅子ノ前ニ立、大衆モ如此。但新知事頭首ハ東西ニ不臘次ニ立。其後小問訊ノ坐ノ、可有茶。同茶了テ住持炉ノ脇ニ進テ(12a)香ヲ焼キ日子ヲ供ノ談。即了時侍香侍客ハ内ニ入り東西ノ兩班ノ前ニ逐一問訊ノ堂ヲ出ツ。次ニ新知事頭首ハ中央ニ立。重テ住持ト對シテ問訊、觸礼兩展觸礼此觸礼ハ東西一同ニスヘシ、次ニ兩展ハ知事ハカリスヘシノ知事ハ單寮床轉ス。頭首ハ西堂床ニ轉ス、住持位ニ歸ス。侍香堂ニ入テノ礼ハ初一月半同。但コ、ニテ可有湯。同湯了テ新兩班中央ニ立、重テ問訊ノ堂ヲ出レハ同ク供也。堂前ノ鐘ヲ鳴ス。頭首ハ堂ニ入り名ノ前ニ立ツ。但シ下ヨリ入ヘシ。大衆ハ各位ニ立、知事ハ聖僧床ノ板頭ニ立。住持堂ニ入テ首座ニ問訊ス。首座位ヲ轉上ス、又問訊ノ觸礼如此。西藏主マテシ了テ、住持龕ノ上間ヨリトヲリテ後堂ニ礼。以前ト同。住持歸テ位ニ立ツ。知事即住持ノ前ニ進テ問訊ノ、知事ノ日子ヲ取テ、又住持ノ前ニ進テ問訊ノ龕ヲ巡テ椎ノ前ニ立テ、椎巾ヲ手ニカケテ椎ヲ一下メ云、白大衆ニ、前知事告退ヲ、此務不可缺人、適奉堂頭和尚ノ慈旨、拜請某都寺充一。日子ヲ讀了又云、謹白、即椎ヲ一下スル。即侍香知事ノ前ニイタリ逐一問訊ノ堂ヲ出ツ。即知事ハ住持ノ前ニ進テ、觸礼兩展觸礼。但初ノ觸礼ノ時知客椎ヲ一下メ云、知事ヲ請了、ト云テ龕後ニ立ツ。知事ハ觸礼了、龕ヲ巡テ聖僧前ニテ大展三拜シ了ル時、侍香自龕後ヨリ

出テ、(12b) 首座床ヨリ知事ヲ引テ巡堂一匝。侍者ハ叉手、知事ハ問訊ス。同巡堂了聖僧床ノ板頭ニ立双時、堂司庫子喝メ曰、大衆礼加新知事、ト云ハ各触礼。又云、新知事礼謝大衆、ト云ハ又触礼。又云、大衆新知事ヲ送テ庫子ニキセシム、云ハ即堂前ノ鐘ヲ鳴ス。即住持々々大衆維那モ同庫司ニ至ル。頭首維那モ寮ノ前ニ至ル。同知事ハ庫司ノ下間立ツ、住持ト對ノ廊下ニテ問訊ノ内ニ入テ、触礼送テ出テ問訊ノ、住持即去ル。維那寮ノ前ニ至ル。次旧知事交代。但新ハ下間、旧ハ上間ニ立テ問訊ノ内ニ入、触礼ノ又立ナリ、新ハ上間、旧ハ下間ニ立テ又触礼ノ旧ハ去。新ハ大衆ノ礼ヲ受ク。其時ハ先侍者、次知事、次西堂單寮都文都官都寺マテ悉シ了、頭首寮ニ至ル也。寮ヲハ首座ヨリ送始ム。同寮ノ上間ニハ住持、下間ニハ維那、對ノ問訊ノ客殿ニ入テ問訊、触礼ノ廊下出テ、問訊去。住持ハ後堂ニ至ル。又新旧維那ノ交代。新ハ下間、旧ハ上間ニ問訊ノ内ニ入ル。内ニテ問訊触礼ノ、又新ハ上間、旧ハ下間立ナリ、触礼ノ旧ハ去。新ハ大衆ノ礼ヲ受ク。但住持ノ寮送ル事ハ知客寮ニ至ルマテ如此。新舊ハ交代モ同前。悉寮送了テ、新知事頭首ハ茶堂ニ至リ、挿香触礼ノ去。但知事頭首ハ別々ニアリ。次二新旧兩班(13a) 班ハ堂司庫司ヲ首トシテ、茶堂ノ東脇ヨリ巡礼スル也。喝曰、新旧兩班ノ巡礼、ト云也。茶堂ノ西ノ脇ニテ了。兩班交コ、マテ了。又侍者^{カハル}交礼ハ、旧侍者茶堂ニ至リ住持ニ對ノ香ヲ立、大展三拜^{ツイ}退シ了テ、侍香寮ノ前ニ至テ新侍者ノ交代ヲ待ヘシ。但新侍者之目子ヲ方丈ヨリ請客頭ノ維那寮ヘ送ル。維那寮ヨリ貼供シテ、其侍者ヲ請集テ即侍者來レハ維那客殿ニ出テ問訊ノ、客殿ニナナル。侍者モ同坐ス。茶ヲ吞了立ツ。即維那香ヲ焼キ日子ヲ供ノ讀ヲ同讀ミ了テ、触礼ノ位ニ坐ス。同湯ヲ吞ミ同了テ維那ソノ侍者ヲ引テ、方丈ニ上ル。維那住持ニ對ノ問訊ノ出去ル。次二侍者住持ニ對問訊ノ、香ヲ立テ位ニ帰、大展三拜ノ去ル。又侍香寮ヘ引至ル。同寮ノ上間ニハ維那、下間ニハ侍者、下ニテ問訊ノ客殿ニ入テ触礼ノ送テ廊下ニテ問訊。次新旧侍者ノ礼ハ頭首寮□^下同。又新侍者方丈ニ上テ、香ヲ立大展三拜ノ去リ、茶堂ノ脇ニ至リ、新旧侍者ハ堂司庫子ヲ首トシ頭首ノ如ク巡礼ノ了、不

巡堂ヲ引時、都寺ニ問訊ノスベシ

時ニ交ル時ハ御影ノ間ニテ礼在。其時ハ維那其侍者ヲ具メ方丈ニ上ル。維那内ニ入テ問訊ノ去ル。其後新侍者内ニ入テ、住持ニ對メ問訊メ香ヲ立テ位ニ歸テ、触礼メ去。次ニ兩班交ノ明日ノ粥僧堂ノ再請ノ鐘ヲ請客頭首座床ヨリ問訊メ(13b)後堂マテ悉シ了テ、龕ヲ巡テ堂ヲ出テ、知客ヨリ都寺ニ至マテ、悉問訊シ了テ、粥諷經ノハツルヲ待。同ハテ了ハ茶堂ノ板ヲ打、即其衆茶堂ニ來ル。侍香茶堂ノ上間ニ立テ問訊ス。先ツ新ハ内ニ入り、知事ハ立位ニ。同頭首ハ主對ニ立。又旧知事ハ賓位ニ立。同頭首ハ賓對ニ立。悉入テ侍香堂ニ入り、其外ノ礼ハ旦望ノ礼ト同。

新知

東

中

新頭

同

新知

西

旧頭

同

佛涅槃

十八

并浴主ノ礼卯月八日僧堂ナシ、臘八但僧堂アリ。紅糟之代

侍香住持ニ上堂ヲ報スル礼ハ旦望ト同。又上堂ノ牌カクル事モ同。次ニ茶堂ノ礼罷テ祝聖ニ趣ク。兩班即立班ス。住持中央ニ立ツ。侍香即祝聖ノ香ヲ出ス。住持取テ祝シ了テ、侍香ニ出ス。侍香々合ノ蓋ニ置テ炉前ニ進テ香ヲ立。同焼香メ住持ノ後ニ歸ス。同住持進テ焼香位ニ歸ス。即磬ヲ打ツ、其餘ハ旦望ト同シ。但其日居堂ナシ。又座前ノ問訊ナシ。次ニ上堂其時節ニ請客頭首座寮都寺ニ案内ヲ申。侍香寮ニ至リ、其外ハ如常。但鼓ハ一通、住持法堂ニ出テ、登座メ立ツ。同侍香登テ香ヲ出ス。同取テ説法了、侍香炉ニ香ヲ立^三、焼香メ下座ス。同住持位ニ坐ス。其(14^a)外ハ如常。同説法了テ下座ノ時、堂司庫子法堂前ニ進テ云、半齋、ト云テ去。同大鐘堂前鐘殿鐘ヲ撞也。大衆悉ク佛殿ニ集リ列拜ノ圖^三立。住持佛殿ニ至リ、後門ヨリ焼香メ正面ニ至リ、兩班ニ問訊メ進テ焼香。侍香供臺ノソハエ來テ、瓶ヲ取、盞ニ湯ヲ入ル。同供メ住持侍客ニワタス。同又侍香ニ渡ス。承仕取テ卓ニ置、盞ヲ供

シ了テ、住持三拜。又進^テ□香ヲ焼キ飯ト嘍トヲ供ス。以前如ク取ツク。住持位ニ歸三拜。又進テ香ヲ焼キ茶ヲ供ス。以前ノ如ク取テ、各々侍者ハ位ニ歸、住持モ同。又三拜コ、ニ九^拜□了。聽進テ香合ヲ取後ニ立。次ニ出班焼香ノ鉢ヲ鳴ス。維那位ヲ離テ供臺ノ脇ニ立ツ。先住持進テ焼香ノ位ニ歸ス。侍香同香ヲ分テ位ニ歸ス、次ニ東堂一例ニ進テ我カ辨香ヲ立テ位ニ歸ス。次ニ西堂一例ニ炉前ニ進テ香ヲ立テ位ニ歸ス。其餘ハ如常。但借香謝ノ問訊ナシ。次ニ列拜如常。同列拜罷テ兩班立班、即維那疏ヲ始ム。同疏ハシマル住持坐具ヲ展三拜、又知客香炉ヲ持ス、右伏以、所ニテ炉ヲ出ス。同侍香々香合ヲ出セハ、即焼香。同疏ハテ了レハ堂司庫子、疏ヲ取テ本ノ如ク立ツ。同磬ヲ打テ諷經アリ。同罷テ小回向ハツレハ、浴主ノ礼ノ爲ニ鼓ヲ鳴ス。即住持大衆僧堂ニ趣ク。沙喝ハ其礼ニ不逢。近來如此。浴主明樓ノ上間ニ立テ、大衆接ス。(14b) 大衆堂内ニ入テ、浴主廊下ニ出、住持ニ對ノ問訊。即鐘ヲ鳴ス。住持堂ニ入テ位ニ立。次ニ浴主堂ニ入テ、住持ニ問訊ノ、巡堂一匝ノ、中央ニ立テ問訊。即大衆坐ス。即龕前ニ進テ焼香、八所ニ焼了テ住持ニ問訊ノ、巡堂一匝ノ、聖僧床ノ板頭ニ立。即鐘ヲ二下鳴。蓋ヲ入。悉瓶入了テ出テ、浴主龕ニ進テ大展三拜ノ、住持ニ問訊ノ巡堂一匝ノ、中央ニ歸ノ問訊ノ堂ヲ出了。即鐘ヲ一下鳴ス、悉蓋ヲ取テ、下座ノ鐘ヲ三鳴ス。其時住持大衆堂出了。但近來大巡堂ナシ。

二祖宿忌十九 達磨火德看經可有日中開山忌イツモ礼如此

法堂ヲ飾事、法座ハ知客、下ハ維那寮ヨリ職也。其日センタン了テ堂司庫子案内ヲ申テ鐘ヲ鳴ス。即衆集ル、即住持位ニ立。進テ焼香三拜、同侍香侍客ハ供臺ノ脇ニ立。即請客頭鼓ヲ鳴ス。住持供臺ノ前テ湯ノ蓋ヲ供ス。侍客請取テ侍香ニワタス。即侍香取テ法座上ノ卓^三置テ兩侍者ハ位ニ歸ス。同鼓ヲ打擧ク。住持蓋ヲ供シ了三拜。又供臺ノ前ニ進テ揖三拜。其時鼓ヲ三ツ鳴。次諷經悉了テ、又堂前ノ鐘ヲ撞。大衆開山塔ニ赴ク。諷經ハ如常。了沙喝ハ法堂ニ歸諷經。

同献粥 廿(15 a)

其朝ノ開靜三通メニ住持法堂ニ出テ、粥ヲ供シ奉ル。住持香ヲ焼、湯ヲ供ノ三拜、又焼香ノ粥ヲ供ノ三拜、又焼香ノ茶ヲ供ノ三拜。但シ傳供ハ宿忌ノ如シ。同住持粥僧堂□^三至ル、同粥了テ佛殿ニ至リ、諷經ハ大悲咒一返、消災咒三返。行堂ナシ。次法堂諷經、次ニ開山塔ニ就テ諷經了、又沙喝ハ法堂ニテ諷經スヘシ。

同半齋 廿一 但開山忌ニハ疏ナシ、達磨忌ハカリ也

堂司庫子、其時分ニ如常、案内ヲ申堂前ノ鐘ヲ鳴ス。即大衆集リ列拜ノ圖ニ立ツ。住持進テ焼香三拜、侍香々合ヲ取テ、其マ、供臺ノ脇□^三立。又進テ湯ヲ供ノ三拜、又進テ焼香ノ飯ト嚙ト供ノ三拜ノ、坐具ヲ収ム。次ニ請客頭茶礼ノ鼓ヲ鳴ス時、又進テ焼香三拜。又進テ茶ヲ供ノ三拜、即請客頭鼓ヲ打拳。其時炉前ニ進テ揖ノ歸。三拜ノ坐具ヲ収ムル時、下座ノ鼓ニ打ヘシ。其時聽叫炉前ニ進テ香合ヲ取ヘシ。次ニ出班焼香ノ鉞ヲツク。維那位ヲ離テ、供臺ノ脇ニ立ツ。次ニ住持進テ焼香、位ニ歸ス。侍香ハ香ヲワケ供臺ニ置テ位ニ歸ス。其後東堂西堂一例ニ立チ、我カ小辨ヲ立テ問訊ノ位ニ歸ス。次ニ都寺ト首座ト對ノ焼香、其末モ如此。但謝香借香問訊ナシ。同出班焼香了テ、次ニ列拜悉ク(15 b)了テ兩班大衆圖ヲ離テ立班ス。即堂司庫子磬ヲ鳴シ、大悲咒始ム。即焼香鈴鳴ハ住持進テ焼香三拜。次ニ開山諷經ノ案内ヲ申ス。堂前ノ鐘ヲ鳴ス。大衆即崇壽院エ赴ク。諷經ハ如常。但達磨忌モ如此。宿忌以前ニ疏名ヲ申ス。即宿忌鐘ヲ鳴ス。諷經傳供ハ如以前。但達磨忌半齋之時、傳供了テ聽叫香合ヲ持ス。辨香ヲ蓋ノ上ニ置テ、侍香ニ出ス。即取テ住持ニ香ヲ出ス。即取拈香了。進テ焼香□^二位ニ歸ス。即出班焼^{〔香あり〕}ノ鉞ヲ鳴ス。其外開山忌同。但シ列拜了圖ヲ離テ立班ス時、維那疏ヲ讀ム。右伏以ノ所ニテ住持三拜。疏ノ間ニ手香炉ヲ持ス。疏了テ知客ニ渡之。其後諷經如常。開山忌半齋大悲咒、達磨忌ハ楞嚴咒

前住忌 廿二 但近年具代自私辨之次ニ當任ノ弟子ナル時、借香謝香問訊ナシ

其日ノ粥諷經歸二堂前ノ鐘ヲ鳴シ、祖堂ニ赴テ、列拜ノ圖ニ立ツ。同出班焼香ノ鉢ヲ鳴ス。焼香ハ如常。但借香謝香ノ問訊アルヘシ。次列拜了テ立班ノ大悲咒、次回向了。但住持ノ先師ノ時ハ借香謝香ヲ畧スル事モアリ。

前任入牌 廿三 但其上足答拜スヘシ

兼テ其上足タル人、綱維寮ニ上テ、入牌スヘキ由ヲ報ノ、次ニ方丈^{三上}□□テ、住持ヲ牌ノ拈香ニ請ス。既ニ其日ニナレハ請客頭、祖師堂ヲ飾ル。諸(16a)祖師諸位牌ノ前ニ逐一供具ヲ備、真前モ如此。但小位牌ノ臺ハカリ供臺ニ置ヘシ。真前ノ茶湯ハ拈香了可供。其時分ニ堂司庫子案内ヲ申、鐘ヲ鳴ス。都寺先ツ祖師堂ヲ出、諸位牌ノ茶湯ヲ供メ待。次ニ兩班大衆集テ立班ス。次ニ住持後門ヨリ入テ諸堂ニ焼香メ都寺ノ上ニ立。維那位ヲ離テ焼香メ住持ニ問訊。即住持問訊受テ、東堂ノ頭ニ問訊。其問訊ヲ待テ下ニ立ナリ問訊メ、又大衆ニ普同問訊メ位ニ立ツ。但維那ノ拈香ヲ請スル時モアリ。又近年ハ雪心和尚ノ代ニ維那モ塔主モ不請メ、但スクニアル時アリ。又古邦和尚代ニ海門和尚入牌アリ。其時ハ住持諸堂ノ焼香メ、都寺ノ上ニ立時、塔主ヨツテ拈香ヲ請。是ハ蘭室西堂ノ意見也。其上同聽叫ニ盆ヲ持セテ來テ其盆ヲ取、侍香ニワタス。同請取テ住持ニ出ス。住持牌ヲ取テ佛事即了テ、牌ヲ盆ノ上ニ置テ、侍香都寺ニワタス、都寺盆ナカラ請取テ盆ヲハ祖堂ノ承仕ニ持之、牌ヲ臺ニ立テ、位ニ不歸メ、供臺ノ前ニテ茶湯ヲ供メ、住持大衆列拜ノ圖ニ立ツ。出班焼香、列拜、前任忌ト同。諷經ハ大悲咒、但渡諷經者法堂。塔頭ハ不定。其ノ人ノ異業^一。

衆寮小茶湯之礼 廿四 湯ハ先寮主可送、其後寮元送了テ小茶湯アリ(16b)

寮元行者一人、力者二人コシラヘテ盆ヲ二枚飾リ、一枚ニハ香炉燭臺ヲ置、一枚ニハ盞ト瓶トヲ置ヘシ。住持東堂ノ處ニ至、先行者炉燭ノ盆ヲ客殿ノ中央ニ置去ル。時寮元住持ニ對メ小問訊メ香ヲ焼キ、歸テ位ニ坐ス。即行者盞ヲ入瓶出テ問訊メ歸去。諸東堂モ如此。寮主如此メ、西堂單寮五頭首ノ處ヘ可送。礼ハ同前。但西堂單寮ハ湯

ヲ吞事ナシ。其時ハツ、ミナカラ置テ帰也。時ニヨルヘシ。

次ニ其日ノ齋罷テ衆寮ノ下間ニ状ヲ可貼。其状ニ曰、

捻ノ出入板ヲ出事ナシ、入ル事ハアリ

「護國禪師開之時、能寅申、國師開ト。同前國シ開ハ

祖堂入牌ヲワツテ、法座ヲカサリ諷經也。カサ

リヤウ、上堂ト同。大ヒシウ・レンケン咒、ニ反也。祖堂

ナリトモ法堂フキンアリトモ、其住持次第ニ

カワル也。其時ニヨルナリ。康圓和尚ノ時「代アリ」(17a) (以上五行、京大本にない書き入れ)

伏請合寮尊衆禪師

守寮比丘某謹狀

守寮比丘某。

右某啓取今晚就寮煎湯一中特為

合寮尊衆聊旌

○○之儀伏望

衆慈同垂

光伴謹狀

今日日守寮比丘某狀

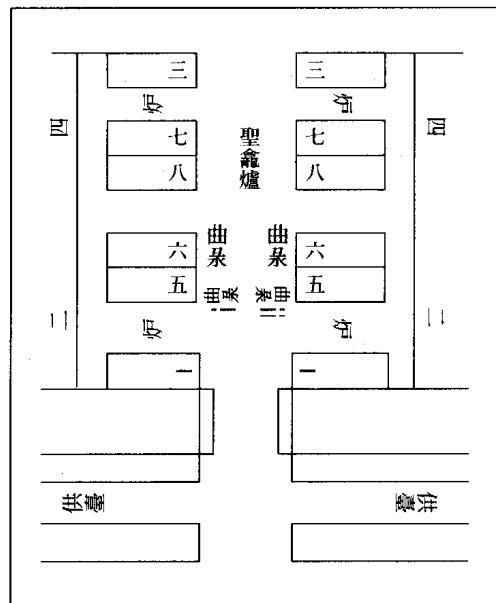
堂内ノ衆ノ諱名ヲ本牌ニ書メ、供臺ヲ飾

リ可盛、自寮元寮持之調經牌ニハ

湯罷ト云小牌可貼、點湯之牌ニハ今

晚ト云小牌可貼。

(17 b)



次ニ前門ニハ供臺ヲ飾リ、大衆ノ坐牌ヲ盛ヘシ。後門ニハ給仕ノ差定ヲ上下間ニ掛ヘシ。又下間之出入板ノ東ノ方ノ柱ニ寮主副寮望寮ノ差定ヲ掛ヘシ。即礼ノ時分ニ成レハ侍者達ニ案内ヲ申スヘシ。即望寮板ヲ打ハ大衆々寮ニ集ル。寮主副寮ハ前門ノ上間ニ立ナラヒ大衆ヲ請ス。次ニ侍者一例ニ問訊メ堂ニ入、位ニ立ツ。次ニ維那ト寮元ト堂ニ入ル。其時ハ兩方問訊ヲセス。坐ニ入り位ニ立ツ。次ニ寮主副寮對メ内ニ入り寮元維那ニ問訊メ、其問訊ヲ持テ侍者ノ頭ニメ納テ、次ノ侍者ノ逐一二云了テ納テ首座床ノ頭、聖僧床ノ頭ニメ問訊。其ヲ持テ長床ノ板頭ニ問訊シ、納テ叉手ニテ、アトヘモト□、龕ノ脇ヲ透テ後堂床立。僧床ニテ問訊。其ヲ持テ長床ノ板尾ニテ問訊ニ納テ

歸り、首座床對聖僧床對二問訊シ巡テ、出入板ノ東二問訊メ、叉手ニテ首床へ歸。龕ノ脇ヲトヲリ、後堂ノ對立、僧床對問訊ノ持^五□、出入板ノ西二問訊メ納テ、又叉手ニテ後堂床へカヘリ、龕ノ脇ヲトヲリ中央ニ立チ并テ問訊。是一坐ノ礼。即大衆床ニ坐ス。即龕前ニ進テ焼香。六所ニ同焼了テ、一坐ノ礼ノ如ク又スヘシ。悉了テ、中央二問訊ス。其時望寮板ニ二打、即盞ヲ入ル。其間ハ二人ハ屏風ノソヘニ立ツ。次ニ瓶出レハ中央へ進テ大展三拜メ、以前ノ礼ノ如ク又スヘシ。悉礼了テ、中央ニ歸テ問訊メ堂ヲ出ツ。即(18^a)板ヲ打ハ盞ヲ舉、悉了テ下座ノ板ヲ三打ハ、大衆堂ヲ出ツ。但寮元ハ明樓ノ上間ニ立チ、大衆ヲ可接了テ、次ニ^知□事、次ニ頭首、次ニ寮主、次ニ東堂、次ニ西堂、了テ住持、次ニ給仕ノ湯ノ礼。

各給仕後門ニ集ル時、寮元ノ侍者接ス。下間ハ立^{リツソウトコ}僧床、同對、北頭ニ立ツ。□^五間ハ後堂床、對床、南頭ニ立。即寮元ハ後堂二問訊メ坐ス時、湯ヲ入ル瓶ヲ入ル。下座ノ問訊メ、各本位ニ歸ス。

結制之礼 廿五 楞嚴會 結制解制モ礼ハ同、佛母ハ四月ハ疏モ始、七月ハ終、疏終。

堂司庫子ハ楞嚴頭方丈首座都寺寮ニ案内申了、茶堂ノ板ヨリ打始メ大板マテ打、即大鐘堂前殿鐘同時ニツク。即大衆佛殿集リ圖ニ立ツ。楞嚴頭ニ同。次ニ維那諸堂焼香了テ、殿ノ東ノ口ヨリ入テ、悉シ了テ中央ニ香合ヲ置、圖ニ立時、楞嚴頭ニ問訊メ向逢テ立ツ。又行道ニナル時ハ本尊ノ方ヘムクヘシ。楞嚴頭モ同。維那焼香ハ自僧堂山門。庫子佛殿之東口ヨリ入テ、阿弥陀ノ前ヨリ土地普庵祖堂弥勒正面、其後中央悉焼了圖ニ立。此時ハ其前ニ立テ、出班焼香。鉢ヲツク時、口ノハキヘ出也。住持モ諸堂ノ焼香了、佛殿焼香也。本尊ノ焼香ノ時、承仕盞ヲ出時同湯ヲ入。直ニ取テ佛前ニ置ク。供シ了テ焼香メ歸テ中央ニ香タキ、歸テ圖ニ立。即出班焼香ノ鉢(18^b)ヲツク。維那位ヲ離テ、供臺ノ脇ニ立。其餘ハ如常。但兩班斗又借香謝香無。了テ維那位ニ歸ス。疏ヲ讀同。了テ啓請、次ニ佛母、次ニ楞嚴咒、次ニ後啓請、了テ維那小回向ヲ讀ム。悉ハテ了。

入寺儀式 廿六 公文出テ兩班交時ハ堂前鐘ヲ不可撞

新命公文領ノ、ヤカテ都寺寮エ可送。次ニ維那寮ヨリ其處ニ可有礼事ヲ寺中ヲフレ、堂前ノ鐘ヲ鳴ス、則都寺益ヲ飾リ帖ヲ置。力者ニ持セ行者ヲ具メ、其處ニ至ル。行者益ヲトリナヲシ客殿ノ卓ニ置テ去ル時、都寺内ニ入り新命ニ對ノ小問訊メ、進テ香ヲ焼キ帖ヲ供メ、新命ニ出ス。同請取テ還香シ供メ益ニ置テ、中央ニ歸テ問訊触礼メ坐ス。則湯ヲ入レ、ヤカテ引物ヲ出ス。湯了テ去ル、新命送テ問訊メ去ル。次ニ本寺ノ東堂新命ニ對ノ問訊、逐一ニ香ヲ立、位ニ歸ス。則還香触礼メ去ル。次ニ西堂逐一ニ香ヲ立、同還香触礼メ去。次ニ知事一例ニ立ツ。都寺進テ香ヲ立ツ、則還香位ニ歸触礼メ去ル。次頭首一例ニ立、首座進テ香ヲ立テ、問訊メ先ツ去ル。次單寮以下、勤旧ノ頭進テ香ヲ立テ位ニ歸ス。悉ク立チ去ル時、但逐一ニ還香。其後頭首面ニ進テ、問訊触礼メ去ル。勤旧モ同去ル。次ニ沙喝一例ニ立双ニ、沙弥頭進テ香ヲ立テ、位ニ歸メ三拜メ去ル。次ニ行者一例ニ立双ヒ、參(19a)頭進テ、香ヲ立テ位ニ歸メ三拜メ去。次ニ力者客殿ノ庭ニ出テ三拜メ去ル。次ニ寺中ノ客東堂西堂礼。次ニ第二同。次ニ旧兩班ノ退、知事先一例ニ出テ新命ニ對ノ問訊メ、香ヲ立位ニ歸ル。触礼メ去ル。次ニ頭首同。次ニ衣鉢侍者新兩班ノ處ニ至リ、内報ス侍者マテ悉シ了ル。請客頭ハ西堂ノ頭□西ノ單寮ノ頭ニ礼ヲ報ス。悉ク衆集テ客殿ニ立ツ。但節ノ兩班カワリト同シ。此時ハ衣鉢侍者侍香職ヲスヘシ。次ニ新命日子ヲ讀了テ、侍衣客殿ヘ入テ、都寺ニ問訊。其問訊ヲ持テ浴主ニ入、侍衣ハ出ツ。其外イツレモ茶堂ノ兩班交ト同。此礼了レハ堂前ノ鐘ヲ鳴セハ、頭首堂ニ入テ名ノ前ニ立ツ。同知事モ名ノ前ニ立ツ。其時維那堂ニ入テ首座ニ問訊ス。首座位ヲ轉上ス、即問訊触礼書記以下モ同ク了テ、維那龕ノ左ヲトヨリ、後堂床ニ至リ、礼ハ以前ト同メ、維那堂ヲ出レハ、又堂前ノ鐘ヲ鳴セハ、知事ハ庫子ニ至ル。頭首ハ寮ノ前ニ至ル。庫子ノ礼ハ知事ト下間ニ立ツ。維那上間ニ立テ触礼メ去ル。但新旧ノ交代無。次ニ維那ハ寮ノ前ニ至リ、廊下ノ下間ニ立ツ。侍衣ハ上間ニ立テ、問訊メ客殿ニ入テ、又問訊触

礼ノ出テ、廊ニヲリテ小問訊ノ、侍衣ハ去ル。次ニ維那首座ヲ送ル礼ハ、侍衣ノ維那寮送ト同。悉送り了テ新命ノ處ニ至リ挿香スヘシ。但新命寺外ニアラハ不可挿香ス。次ニ自新命方(19b)侍者ノ目子ヲ維那寮エ可送。即請取ヲ貼供ノ侍者達ヲ請集。其礼ハ如ク節シ了テ、即維那侍者ヲ引テ、新命ノ在處ニ至ル。礼ハ如節。次ニ上堂小參ノ禪客來テ礼ヲ去ル。次ニ首座寮ニテ入院奉行ヲサスヘシ。是ハ先兼日也。首座寮ヨリ看寮經シテ西堂達單寮ノ頭、紀綱寮エ可報。即其日ニナレハ其處エ行者シテ請ス。衆集テ諸ノ奉行ヲ可差。清書ハ紀綱寮ニテシテ貼供ノ、衆可報。次ニ入院兼日ニ請客頭ハ、侍客方ヨリ請帳ヲ請取テ其衆ニ可報。同兼日ニ接待持ノ牌ヲ堂前ノ下間ニ掛ヘシ。當日ニハ上間ニ掛ヘシ。イツレモ堂司庫子ノ職也。即入院ノ當日ニナレハ御所御成ヲ見テ大開靜。大鐘堂前鐘殿鐘首座寮ノ板、各々可鳴。即新命捨門ノ前ニ輿ヲ立ツ。未出輿先侍一例ニ輿ノ前ニ進也。新命ノ左ヲ本ニ立チ、問訊ノ可退。次ニ知事ハ新命ノ左ノ方、南頭ニ可立。頭首モ同南頭ニ可立也。新命進テ兩班ニ問訊ス。即問訊ヲ受テ知事頭首ハ立^カ□^カ□^カリ、寺ヲ本ニノ子ルヘシ。職者ノ行者モ如此。即山門ノ下間ニ立班ス。新命問^問□^問ノ進テ香ヲ燒キ位ニ歸ノ佛事云々、了佛殿ニ至ル。但壇ノ上ニテ參頭ヨリ以下諸具足ハ、奉行方ヘ可渡。即奉行請取テ法堂室間ニ可置。行燈ハ上堂マテ可持。次ニ新命殿ニ入テ、本尊ノ前ニテ小問訊ノ進テ(20a)燒香位ニ歸シ、佛事云々、了テ則三拜、承仕磬ヲ鳴ス。次ニ土地堂、次祖師堂佛事、了テ三拜、了テ僧堂ニ至ル。供頭鐘ヲ鳴ヘ^鐘□^鐘。先知事堂^三□^三入テ名ノ前ニ立。次ニ頭首堂ニ入テ位ニ立ツ。新命堂ニ入テ龕前ニ燒香三拜。侍者モ如此。則三拜了時、維那堂ニ入テ龕ヲ巡テ首座床ノ^頭□^頭□^頭リ新命ニ問訊ノ巡堂。侍者モ如此。但維那ハ叉手。新命侍者問訊、則巡堂了テ新命ハ椅子ノ前ニ立ツ。維那ハ堂ヲ出テ、諸知事ヲ引テ住持ノ前ニ至リ、知事頭首ハ立重テ触礼ノ、龕ヲ巡テ堂ヲ出テ、室間ニ至ル。立班ス。住持モ同ク椅子坐ス。則請客頭炉香合ノ在卓ヲ住持ノ前ニ置テ去ル^サ。侍香左ニテ進^{ス、ム}。香ヲ燒キ少シ退キテ坐具手ニ取テ問訊ノ、椅子ノ左ノ脇ニ立ツ。新命拂子竹篋^{シツヘイ}ノ間ヲ取テ佛事在。即了テ卓ヲ退ク、侍香

位ニ帰ス。又重書ノ卓ヲヨス。則都寺位ヲ離テ住持前ニ至リ、小問訊ノ香ヲタキ、硯箱ヨリ小刀ヲ取出シ、重書ノ箱ノ封ヲ切テ住持ニ出ス。其後箱ヨリ重書ヲ取出シ住持ニ出メ位ニ帰ス。次侍衣進テ硯箱ヨリ筆取出メ住持ニ捧ク。則取テ代幾世ヲ書メ、則印ヲツキ、即侍衣ニ出ス。請取テ箱ニ入ル。則住持判ヲ出セハ、請取箱ニ付テ侍衣ハ位ニ帰ス。請客頭卓ヲ退ル也。住持下座ス。請客頭炉ノ在ル卓ヲ中央ニ置テ香合ヲ開、(20b)辨香ヲ取出シテ去ル。則知事一列ニ出テ新命ニ問訊、都寺位ヲ離テ香ヲ立テ位ニ帰ス、住持^遠□香ノ、触礼ノ去ル。次ニ五山一例ニ進テ逐一二香ヲ立、位ニ帰ス。新命還香触礼ノ去ル。次ニ當寺ノ東堂進香ヲ立触礼ノ去ル、次ニ西堂礼ハ同ノ去ル。次ニ頭首一例ニ進テ問訊ノ首座位ヲ離テ香ヲ立テ先去ル。次ニ勤旧ノ頭進テ逐一二香ヲ立テ問訊ノ先シリソク。悉立了テ頭首面ニ進テ問訊触礼ノ去ル。新命小方丈ニ至ル。都文引物ヲ持來テ住持ノ前ニ置テ則坐ス。則湯ノ礼アリ、了互ニ去ル。茶堂礼悉了。次ニ上堂ハ御所御成時ハ、御点心了ヲホセ、出サル、時、請客頭茶堂ノ板ヲ打^五□鼓ヲ鳴ス。則住持茶堂ニ出、椅子ニ坐ス。侍者沙喝之礼ハ如旦望。住持法堂ニ至リ法座ノ脇ノ椅子ニ坐スレハ、則鼓ヲ打アク。則請客頭來テ炉香ノ在卓ヲ住持ノ前ニ置テ去ル。即都寺位ヲ離テ住持ノ前ニ進テ香ヲ焼キ、帖ヲ取テ住持ニ出シ位ニ帰ス。住持焼香ノ帖ヲ供ノ佛^事□在。了都寺位離テ、請取テ請客頭ニ渡ス。請客頭盆ニ置テ、維那ノ前ニ至ル。維那讀了、請客頭請取盆ニ置テ去ル。次ニ都寺位ヲ離テ住持ノ前ニ至^リ□門疏ヲ出ス。礼ハ帖ト同。則佛事了都寺請取、請客頭^三渡ス。法堂承仕首座ノ前ニ至リ疏ヲ開。首座讀了ハ二人共ニ去。次ニ諸山疏、是ハ後堂(21a)首座可讀。次ニ同門疏、是ハ法屬ノ西堂可讀。但知客ノ下ニ立チ法座ノ方ヘムクヘシ。イツレモ都寺ノ礼ハ以前ト同。次ニ三會院主、法^三□ヲ持來ル。先侍真法衣ヲ住持ノ前ニ置去ル。則院主任住持ノ前ニ進テ、衣ヲ取テ住持ニ出ス。住持請取テ焼香ノ佛事在。即了テ着シ、知事ノ後ヲ透リ中央ニ問訊ノ登座ノ立テ、即侍香同登座ノ祝聖ノ香ヲ出ス。則祝シ了テ侍香ニ出ス、侍香炉ニ立ツ。又檀那ノ香ヲ出ス。請取テ拈了、侍香取テ炉ニ立。又嗣法ノ

香ヲ出ス、則取テフトコロヨリ取出ス様ニシテ、佛事アリ。是ヲハ自ラ炉ニ立ツ。其時侍香炉前ニ進テ香合ヲ持シ、右ノ手ニテ焼香ノ、問訊ノ下座シ位ニ立ツ。住持モ即坐。即侍者一例ニ座前ニ問訊位ニ歸ス。次ニ頭首知事、次ニ五山、次ニ十刹、悉問訊シ了テ、侍香位ヲ離テ登座ノ、炉前ニ進テ左ノ手ニテ焼香ノ、住持ノ前ニテ坐具ヲ取テ問訊ノ、拂子ヲ出ス。脇ニ立ツ。次ニ侍客ハ侍香ノ登座スル時、位ヲ離テ南禪寺ノ前ニ至リ問訊ス。其問訊ヲ持テ位ニ歸^ル□。即南禪寺^ツ椎ノ前ニ進テ一下ノ云、法筵龍象衆、當觀第一義、ト云テ^位□歸ル。即釣語。又侍客位離テ南禪寺ノ前ニ至リ、跌坐ノ問訊シ、其問^訊□ヲ持テ萬壽寺ノ前ニ至リ問訊。其問訊ヲ持テ位ニ歸立ツ。上堂悉了テ南禪寺椎ノ前ニ進テ一下ノ云、諦觀法王法、法王法如是、ト云テ位歸^ル□。白(21b) 椎侍者、椎巾ヲキセテ同去。又侍客南禪寺ノ前ニ進テ問訊ノ位ニ歸ス。即住持下座ノ、法座ノ脇ニテ衣カケ交ル。三會院主、請取テ侍真ニ渡サル。住持ハ中央ニ出ツ、次ニ請客頭炉香合卓ヲ中央ニ置テ去ル。但香^合□^三辨香アルベシ。則五山一例ニ立、各香ニ立テ位ニ立ツ。住持還^{ハシ}香觸^ル禮^ス□。次ニ十刹一例ニ出礼同、次ニ本寺ノ東堂西堂逐一ニ香ヲ立礼ハ同。次ニ知事一例ニ出、都寺香ヲ立テ礼ハ同シ。次ニ頭首一例ニ出、首座香ヲ立位歸、先法座ノ右ノ脇ニ立ツ。次ニ單寮^{タン}勤^{コン}勤^{キウ}ノ頭、逐一ニ香ヲ立テ先去ル。悉了頭首前ニ進テ觸禮、諸勤旧モ同時ニ如此ノ去ル。則方丈ニ趣ク。侍香客殿ノ公面ノ上間ニ立テ衆ヲ接^{セン}ス。衆悉入了テ位ニ立ツ。次ニ住持客殿ニ位ニ立ツ。次ニ侍香入テ中央ニ問訊ス、大衆則坐スル。侍香入テ中央ニ立チ、香合ヲ取テ本尊前進テ焼香。又中央ニ焼香ノ即問訊。是一香ノ禮。蓋ヲ入ル、瓶マテ悉了テ、即侍香一湯問訊ス。即侍者一例ニ住持前至テ^問□訊^スノ位ニ坐ス。即參頭侍者ノ蓋ヲ入ル、同瓶出ル時、大衆ノ蓋ヲ舉也。次ニ齋ヲ^問□入、茶子マテ悉了テ、侍香位ニ立テ出テ威儀ヲナラシ、客殿^三□入テ中央ニ問訊、是一座ノ禮。次ニ進テ焼香ノ中央ニ歸テ問訊、是一香之禮。則天目ヲ入ル、瓶マテ悉了、侍香少進テ問訊、是一茶之禮。即侍香ハ出ツ。次住持出(22a) 諸山ヲ送テ問訊ノ了、則供頭火鈴^{コノコウヘコリン}ノ案内ヲ申。即住持僧堂ニ^至□^リ、空鉢ニテツクヘシ。次

二請客頭齋僧堂ノ間ニ小參ノ牌ニ、今^{〔晚〕}、ト云小牌ヲ掛テ、堂前ノ上間ニ掛ヘシ。則侍香齋歸ニ方丈ニ上テ小參ヲ報スル爲ニ、住持ニ問訊ノ歸去ル。次ニ晚ニナレ^{〔公〕}堂司庫子放參案内申、堂前ノ鐘ヲ鳴ス。放參如常^{〔按教修上ニ之ニ葉當晚不鳴放參鐘相〕}。次ニ堂司庫子崇壽院諷經、ト案内申ハ、堂前崇壽院鐘ヲ鳴ス、是モ如常。次ニ小參時分ニ請客頭都寮首座ニ案内申テ、侍香寮ニ至リ、則侍香方丈ニ上、住持ニ問訊メ去ル。則請客頭茶堂ノ板ヲ鳴シ鼓ヲ打。但一通、小參ハ如常。則歸ニ茶堂ニ湯アリ。侍者ノ礼ハ旦望ト同。又入院ノ次ノ朝粥僧堂ノ再請鐘鳴テ如旦望、請客頭請茶ノ問訊メ去ル。粥諷經歸ニ茶堂ノ板ヲ鳴、如旦望茶アリ。侍者ノ礼、旦望ト同。衆悉去。

上堂秉拂禪學^{〔客〕}就侍香寮之礼 廿七

給仕集テ次第ニ茶ヲ進也。十八鐘鳴テ問禪、茶堂ニテ待ソロヘテ問禪。上侍香寮遲參ノ方ヘハ客頭走也。次ニ問禪侍香寮ヘ來レハ客頭接ノ上堂ヨリ前後書記ヲ賓位ニ接ス。藏主以下ヲ侍香ノ下ヘ接ス。勤旧次第立テ侍香内ニ入問訊、其衆ニナヲ香ヲ焼、位坐シ了、即茶ヲ入テ盞ヲ舉^{〔テ〕}後、(22b)侍香立テ焼香カキ立具メ、モチ位ニ坐ス時、給仕一人出テ取、其衆ノ頭ニ出ス、衆皆傳見了、又小僧出テ侍香ノ下ニ居ル。藏主ノ問禪ニ出ス。末ニテ見了テ給仕又出テ本ノ卓ニ置也。一例ニ立テ廊下ニ出ツ、侍香南ノ方ニ出、衆ヲ^{〔送〕}、一列ニ問訊メ去。上堂ナキ時ハ、粥諷經歸ニ請客頭報スル也。旦望問禪又旦望ノ上堂ノ禪学ハ上堂了テ報メ、齋了ニ侍香寮ニ來テ礼在。是モ客頭接テ茶アリ。了テ問訊メ去。侍香ハ南、問禪ハ北ニ居也。旦望ノ外ハ端午計リハ前十五日ヲイテ差也。其外佛誕生重陽佛成道ハ上堂ノ禪学サスト同時ニ報ス。

門前書立式 高旦^{〔禮〕}紙ヲ一枚ヲ折紙ニメ、佛誕生ヨリ後堂マテ面ニ書ス。

書記以下ハ裏ニ書ス。

退院上堂 廿八 座前ノ問訊ナシ

上堂牌ヲ堂前ノ上間ニ掛、管待ノ齋婦ニ、侍香方丈ニ上テ住持ニ案内申セハ、則請客頭茶堂ノ板ヲ鳴シ鼓ヲ打。但一通也。礼ハ日望ト同シ、法座ヲ飾ル事ナシ。上堂了テ杖拂ヲ持シ下座ノ、兩班ニ問訊ス。即請客頭退鼓ヲ鳴コト三下。即住持退記寮至ル。大衆ノ礼アリ。沙喝^行者モ同。前^齋ニ^退アラハ日中ナシ。齋了ニアラハ放參ナシ。但^{展單}センタンアルヘシ。(23 a)

日望上堂 廿九

兼日放參、婦ニ侍香茶堂ノ前ニテ來晨上堂ヲ報スル。爲^問ニ^問訊メ去ル。次ニ^其曉ノ五更ニ点打ハ、請客頭侍者寮ヨリ上堂牌ヲ取テ、堂前ノ上^問ニ掛ヘシ。侍香坐禪ニ入テ住持ノ伴ノ婦テ、茶堂ノ前ニテ今晨上堂ノ報、爲^問ニ問訊メ去ル。次ニ開山諷經、了堂司庫子、首座寮ニ至リ居堂ノ案内ヲ申テ堂前ノ板ヲ鳴スコト三下、頭首板ヲ聞テ僧堂ニ至リ、坐禪ノ上堂鼓ヲ待ツ。即鼓ナレハ前ノ方ヘ向テ坐ス。鼓ニ通ノハタカク時ハ、下座ノ堂前ノ廊下ニ北頭ニ立。双知事明樓ノ東廊ニ立。是モ北頭立チ、兩方問訊メ法堂ニ至リ、正面ヨリ入テ座前ノ問訊メ立班ス。侍香ハ鼓ニ通ニ住持ニ問訊メ、法堂ニ至リ、頭首ノ來ヲ見ル。即來ハ侍香ハ茶堂ニ至リ住持ニ問訊、位歸ス。則上堂了。但節ノ次ノ上堂ノ時ハ住持下座ノ時、新旧兩班ノ礼アルヘシ。但イツレモ人ヲ謝メ下座ノ礼ハ法衣ヲ掛カヘシ。住持法衣ヲ掛事、祝聖上堂ニ可限。茶堂ニテノ粥、婦ノ礼ハ節ト同シ。

上堂歸巡堂 卅

上堂了大衆僧堂ニ至リ、巡堂ノ圖ニ立ツ。先首座堂ニ入テ龕前ニ問訊メ位ニ立ツ。次ニ西堂、次ニ後堂、衆ヲ引ニ堂ニ入ル。維那堂ニ入、龕ヲ巡テ(23 b)上間ノ出入板ヲ透テ、長床ヨリ衆ヲ引テ、首座對床マテ引了、龕ヲ巡テ堂ヲ出、名ノ前ニ立。則供頭鐘ヲ鳴七下、住持堂ニ入テ、龕前ニ焼香ノ巡堂一匝ノ位ニ歸ス。次ニ知事堂ニ入テ、龕前ニ問訊メ、住持ニ問訊メ巡堂一匝ノ、堂ヲ出位ニ歸ス。則侍聖龕後ヨリ侍香ヲ引テ堂ヲ出。侍香ハ堂ヲ不出。

中央ニ問訊ス。即大衆坐ニナラル、礼ハ如常。

三八念誦巡堂 卅一

其日ノ晚ニ成レハ、堂司庫子都寺首座方丈ニ案内申テ、茶堂ノ板ヨリ打始テ庫子ニ至テ打ツ。則大鐘ヲ鳴ハ住持佛殿ニ至リ、土地堂ヨリ焼香ノ、後門祖師堂正面ニ至ル時、侍者上間、沙喝ハ下間ニ立ツ。住持進テ焼香三拜。此時磬ヲ打ヘシ。是佛殿ノ承仕ノ役也。則三拜、了庫子ニ焼香。次ニ山門ノ焼香ノ堂^前ニ至レハ、供頭鐘ヲ鳴^七下。即住持堂ニ入テ聖僧^前ニ焼香ノ明樓ノ中央ニ立ツ。大衆モ圖ニ立ツ。侍客住持ノ焼香ノ間ニ首座ニ問訊メ、其問訊ヲ持テ浴主ニ至ル。又都寺ニ問訊メ、持テ直歳ニ至リ位ニ歸立。則維那位ヲ離テ住持ニ對メ問訊メ、少北ノ方ヘヨツテ念誦ヲ始ム。十佛名時ハ供頭鐘ヲツクヘシ。則念誦了テ住持堂内ニ入テ位^三立ツ。首^{座先}堂ニ入テ位立ツ。次ニ西堂、次ニ後堂、衆ヲ引テ堂内ニ入テ、三員問訊。先龕(24^a)前問訊メ、又住持ニ問訊メ巡堂。是モ節ノ如。維那衆ヲ引ヘシ。衆悉引了テ堂ヲ出、位ニ立ツ。則侍者龕後ヨリ出。侍香堂ヲ不出、中央ニ立テ問訊。即^天衆坐ス。其外ノ礼ハ日望ト同。蓋出レハ、堂司庫司放參ト申。即鐘ヲ^鳴ス。住持堂ヲ出テ、明樓ノ上間立。知事頭首、下間ニ立。重テ問訊メ去ル。又免巡^室ノ時ハ念誦了テ唱物喝食、住持ニ問訊メ曰、大衆免巡堂、ト云去ル。堂司庫子放參ト申。即堂前鐘ヲ鳴ス。但免巡堂ノ時モ住持ト兩班、重問訊アルヘシ。但住持ニヨツテ畧スル事モアリ、不定。

初更五更坐禪 卅二

宵ハ先ツ出寮ノ板ヲ聞、諸寮ノ簾ヲ捲、同昏鐘鳴打ヲ聞テ、灯笼ニ火ヲトホシ、簾臺ニ掛ヘシ。次ニ昏鐘鳴一通メニ都寺佛殿ニ入テ、同鐘ヲ三ツクヘシ。正面ニ三拜メ殿ヲ出ツ。自庫子山門至僧堂ニ、龕前ニ焼香ノ位ニ坐ス。次ニ^座座住持ノ^燒香ノ鐘ヲ聞テ、寮ヲ出^三至僧堂、龕前ニ焼香ノ位ニ坐ス。次ニ住持ハ昏鐘鳴三通。聽叫行者ヲ

具ノ至佛殿ニ、自後門焼香ノ、正面ニ至テ焼香ニ拜。但焼香鐘ハ祖師堂ニ一、普庵ニ一、土地堂ニ一、三尊ニ一、礼拜ニ一、捻ヒノ七ケツクヘシ。悉殿ヲ出テ自庫子山門、至僧堂ニ時、昏鐘鳴ヲ打アケヘシ。即住持龕前ニ焼香巡堂一匝ノ位ニ坐□。但被巾ノ事ハ此面ニ不(24b)有書ニ、即大鐘三通アケテ後、庫子大鼓ノハタカク時、大衆堂ヲ出ヘシ。先住持次首座都寺、其外ハ後門ヨリ悉可出。次ニ一ノ火鈴振時、諸寮ノ灯樓ヲ取入レシト、三下スヘシ。宵ハ先了五更ハ先三カノ五點打テ、都寺寮首座寮方丈ニ案内申テ、帰テ四更一点打ヘシ。即諸寮ニ火ヲトホスヘシ。即長ハタカク時、都寺寮ヲ出テ、宵ノ如ク焼香ノ、位ニ坐ヘシ。長ハタカキアケテ火鈴ヲ振時、住持モ宵ノ如ク焼香シ了、僧堂ニ至ル時、火鈴ヲ振アケ、即点ヲ打ツ。住持龕前ニ焼香、巡堂位ニ帰ス。即点打アケテ大鐘ヲツク時、悉堂ヲ出ヘシ。イツレモ行者行挑トヲ持ヘシ。

巳時 卅三

堂司庫子粥僧堂ノ再請鐘ヲ聞、住持ノ前ヲトヲリ首座□問訊三ノ、龕ヲ巡テ堂ヲ出テ、坐禪ノ牌ヲ僧堂ノ下間ニ掛ヘシ。次ニ粥諷經了、貼供僧堂ノ前ノ板ヨリ打始テ、庫子ノ板打ツ。イツモ三ケツ、打了後、首座寮ノ板ヲ三ツ打ハ即首座堂ニ入テ、龕前ニ焼香ノ位ニ坐ス。次ニ茶堂ノ板ヲ打ハ、住持堂ニ入テ、龕前焼香巡堂一匝ノ位ニ坐ス。暫クメ堂司庫子後門ヨ□入テ、首座ニ問訊、龕ヲ巡堂ヲ出テ、牌ヲ下ヘシ。但首座ニ問訊曰、放□。

坐参 卅四(25a)

堂司庫子齋僧堂ノ再請鐘鳴ニ、坐禪ノ牌ヲ懸去ル。晚ニ放參ノ時節ニ成ハ、堂司庫子ハ首座寮方丈ニ案内申テ、如巳時板ヲ打ヘシ。三ツ打了テ都寺寮ニ至リ放參ノ案内申テ、茶堂ノ前ニ至リ、板ヲ一ツ打、住持茶□ヲ出。又路中ニテ一ツ打、又堂ニ入ル時一ツ打。即堂ニ入テ龕前ニ焼香ノ位ニ坐□。但首座ハ大板打アクル時、堂ニ入テ焼香ノ位ニ坐ス。次ニ沙喝ハ板ヲ聞テ堂前ニ集テ、住持堂ニ入り、明樓ノ下間ニ可立。侍者ハ坐ヘシ。次ニ堂司庫子

巳時ノ如ク後ヨリ入テ首座ニ問訊ノ曰、放參、ト云テ龕ヲ巡テ堂ヲ出。牌ヲ下ハ即鐘ヲ三ケ閑ニツクヘシ。又ヤカテ放參鐘ヲツキハシム。即殿鐘モ同ツクヘシ。□^侍者ハ牌ノ下ルヲ聞テ坐ヲ下リ、沙喝ニムカイヤウテ立ヘシ。即住持堂ヲ出。侍者沙喝ニ問訊ノ佛殿ニ至ル。大衆モ同シ。次ニ五頭首ノ單ヲ展テ置ヘシ。又宵ノ坐禪了テハ自半單ニスヘシ。

諸堂諷經 卅五

粥僧堂ノ再請鐘ヲ聞、其所ノ承仕僧堂ニ至リ、都寺ニ問訊ノ去ル。是ハ茶湯ヲ供ヘキ問訊也。即僧堂了テ、堂前ノ鐘ヲ鳴シ、殿鐘モ同。住持後門ヨリ入テ普菴祖師堂正面、其後土地堂ノ前ニ至ル。楞嚴咒了、消災咒之時、都寺位ヲ離テ卓ノ前ニ進テ茶湯盞ヲ合持、銀錢ヤク所ニ捨テ位ニ歸ス。住持(25b)消災咒ニ返、目ン南向ニ立。暫ノ又本ニ向ヘシ。了小諷經。但祖師堂諷經ノ時ハ、自後門土地堂正面ニ至ルベシ。火德諷經之時ハ、祖師堂ヨリスヘシ。普菴諷經之時ハ、土地堂正面祖師堂ニ後門ニ至ヘシ。韋駄天諷經之時ハ、僧堂ヨリ直ニ庫子ニ至ルヘシ。イツレモ諷經了テ、小諷經アルヘシ。但祖師堂諷經ニハ消災咒アルヘカラス。又土地堂火德韋駄天諷經ニハ住持ノ礼拜アルヘカラス。

西堂參暇之礼 卅六

請客頭參暇ノ礼ヲ可報處ニ、西堂ノ頭維那首座、又首座頭都文都官都寺頭侍者達、悉報了テ衆即茶堂ニ集時、住持ニ報。即住持茶堂ニ出、位ニ立ツ。但參暇西堂ハ西堂床ノ少末ニ立ツ。其時皆左右ニ問訊ノ坐スレハ、即天目ヲ入レ、湯瓶入レ悉拳了ル。但此時ハ給仕問訊□^ス□^ハカラス。天目出レハ大衆下座ス。即侍客堂ニ入テ、新西堂ニ問訊ノ去ル。即西堂中央ニテ出テ住持ニ對ノ触礼ノ去ル。本位ニ立、即侍香堂ニ入テ、如旦望。一坐一香一湯問訊礼アリ。蓋マテ悉了テ、大衆下座ス。即新西堂中央ニテ小問訊ノ去ル。即堂司庫子堂前ノ鐘ヲ鳴ス。即住持其□^察

二至リ、西堂ニ對シテ問訊ノ内ニ入テ、触礼ノ去。送テ問訊、住持ハ去^レ。西堂ハ即方丈ニ上テ挿香スヘシ。但住持ノ寮送テ去レハ、諸位ノ頭悉ク問訊(26 a)ノ可去。兩^班交ト同。

都聞交代 廿七

是モ参暇西堂ト同。但可有新旧都聞之交代。

大坐参 廿八

堂司庫子、首座寮都寺寮方丈ニ案内申テ、常ノ坐参ノ如ク板ヲ打ハ、即大衆モ五頭首モ堂ニ入テ坐ス。次ニ茶堂ニ至リ板ヲ打ハ、住持僧堂ニ至ル。無焼香。其後首座寮ノ板ヲ打ハ、大衆坐ヲナラシ面ムクヘシ。首座即下座ノ後門ヨリ出テ、前門ヨリ堂ニ入テ龕前ニ焼香ノ、帽子ヲキテ聖僧床ヨリ巡堂ノ本位ニ坐ス。即首座ノ巡堂ノ時ハ叉手。但床頭ニ^元揖スヘシ。出入板ニテモ奥ヘ入ヘシ。即堂司庫子、後門ヨリ入テ首座ニ問訊ノ曰、堂頭和尚、今晚放参、ト云テ龕ヲ巡テ出テ坐参ノ牌ヲ下ハ、唱物喝食堂ニ入テ、龕前ニ進テ曰、放参、ト長々ト云テ去ル。即堂前ノ鐘ヲ鳴ス。先首座下坐ノ龕前ニ問訊ノ堂ヲ出ツ。次ニ住持大衆問訊、放参ニ赴ク。

衆寮諷經 廿九 都寺ト首座ト位ヲ離テ龕前問訊ス。二人同時焼香ス、位ニ立班ス、香合ハ我也。

湯了寮元、明樓ノ上間ニ立テ、衆ヲ可接。先東堂西堂單寮蒙堂マテ悉入了テ、後知事一例ニ問訊ノ入ル。次ニ頭首一例ニ問訊ノ入テ立班ス。其後寮元廊下ニ出テ、住持ニ問訊ノ去ル。即住持堂ニ入テ中央ニ問訊ノ進焼(26 b)香ノ位ニ立ハ、即諷經悉了テ、住持焼香三拜ノ都寺ノ上ニ立。次寮元龕前ニ焼香ノ少下間ヨリニテ三拜ノ、堂ヲ出ツ。又住持中央ニ立ツ。回向了テ住持堂ヲ出レハ、寮元ハ前ノ廊下ニテ住持ニ問訊ノ去ル。

畧清規了

能寅

能傳〔花押〕(27 a)

来七日都寮小齋、四月二日粥之諷經、歸都寺首座寮時報清帳。（京大本にナシ）